高教研年報

第 57 号

平 成 29 年 度

新潟県高等学校教育研究会

巻頭言

平成29年度の新潟県高等学校教育研究会について

新潟県高等学校教育研究会会長
（新潟県立新潟南高等学校長）
青　山　一　春

Ⅰ　平成29年度の方針について

平成29年度の新入生は、平成25年度に現行学習指導要領が完全実施となり５回目の入学生でした。また、今春の卒業生で現行学習指導要領による教育課程が２巡したことになります。次期学習指導要領が話題として大きく取り上げられておりますが、現行学習指導要領に基づく高校教育は、これからが正念場であるといえます。現行学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成29年度も昨年度に引き続き次の２点を会の方針といたしました。

１　全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力の育成＜共通性の確保＞

２　多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応＜多様化への対応＞

また、国内外の学力調査によりますと、子供たちの９割以上が学校生活を楽しいと感じ、保護者の８割は総合的に見て学校に満足しているという結果です。しかし、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べることなどについては課題が指摘され、学ぶことの楽しさや意義が実感できているか、自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながるという意識を持てているかという点で、肯定的な回答が国際比較で相対的に低いことも指摘されております。そこで、次のことを今年度の活動方針に加えさせていただきました。

３　自分の人生や社会とのつながりを実感し、自らの能力を引き出す教育の実践

このことは、新潟県が目指す「個を伸ばす教育」にもつながるものと考えております。

以上、３つの方針のもと、今年度各部会はさまざまな活動を行いました。本年報にある各部会報告が、各校の総合力を高めることにつながることを期待しております。

Ⅱ　魅力ある部会活動について

本会の会員数は、平成25年度に二千人を切り、以降二千人を割り込む状況が続いて参りましたが、今年度2,005人と二千人代を回復しました。各部会の活性化と魅力ある部会づくりに御尽力いただいた結果と感謝申し上げます。また、魅力ある講師を招聘する等、魅力ある活動ができるよう「繰越金制度」を導入したことも、功を奏しつつあるものと思っております。今後とも、各部会の特色ある活動を進め、広く県内の先生方に高教研各部会の魅力を伝えるとともに、御理解いただけるよう努めてまいりたいと思います。

最後に、高教研の活動が各学校の活性化、授業改善に結びつき、新潟県高校生の自己実現につながるものとなることを祈念いたしまして、巻頭言とさせていただきます。

巻頭言「平成29年度の新潟県高等学校教育研究会について」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・会長　青山　一春

平成２９年度各部会事業報告

１　国　　語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２　地理歴史・公民・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

３　数　　学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

４　理　　科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

５　芸　　術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

６　英　　語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０

７　農　　業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

８　工　　業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０

９　商　　業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７

１０　水　　産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９

１１　家庭科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３１

１２　保健体育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５

１３　生徒指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６

１４　図　　書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３７

１５　視聴覚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３８

１６　定　　通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９

〈研究会一覧〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０

平成２９年度　理事会記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８３

平成２９年度　活動から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９３

平成２９年度　収入支出決算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９４

平成２９年度　役員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９７

（　理事・会計監査委員・　委員・部会幹事および部会会員数・事務局幹事　）

新潟県高等学校教育研究会規約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１００

平成２９年度事務局日誌抄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０４

編集後記　幹事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０５

国 語 部 会

1　運営委員会・代議員会等

（1）第1回

期　日　平成29年6月22日（木）

会　場　じょいあす新潟会館

内　容　年度事業の検討

参加者　運営委員会　9名

議　題

1 平成28年度事業報告および決算報告

2 平成29年度事業計画および予算案

3 平成29年度役員・地区委員選出

4 全県研究協議会の実施計画検討

5 その他

（2）第2回

期　日　平成30年2月1日（木）

会　場　じょいあす新潟会館

内　容　年度事業の検討

参加者　運営委員　14名

議　題

1 平成29年度事業報告および決算報告

2 平成30年度事業計画および予算案

3 全県研究協議会の概要

4 役員、事務局体制

5 その他

2　全県研究協議会

期　日　平成28年10月30日（月）

会　場　あいぽーと佐渡

内　容　研究発表・実践発表

講評

講演

研究協議

参加者　28名

（1）実践発表

①「型を意識した文章の指導」

～安部公房『日常性の壁』を題材にして～

発表者　新潟東高等学校教諭

柳澤　路子

②「知識の活用モデルに注目した授業改善」

～評論文『治具』（塚本由晴）を題材にして～

発表者　新発田商業高等学校教諭

吉田　正実

（2）講　評

県立教育センター

中村　敬行　指導主事

（3）講　演

「明治の漢文教師と来島の文学者」

講　師　佐渡市文化財保護審議会会長

山本　修巳　氏

（4）研究協議

「思考力・判断力・表現力の育成を

目指した授業改善について」

指導・助言

県立教育センター

中村　敬行　指導主事

3　地区研究会

今年度は、実施していない。

4　刊行物

『国語研究　第64集』刊行

地理歴史・公民部会

1　総会・研究協議会

期　日　平成29年6月30日(金)

会　場　新潟市万代市民会館

○議　事

（1）平成29年度役員改選

（2）平成28年度事業報告

（3）平成28年度決算報告

（4）平成29年度事業計画

（5）平成29年度予算案

（6）その他

○実践報告

「採用1年目の取り組み」

(報告者)

小千谷高等学校教諭　酒井　未来

高田北城高等学校教諭　横山　翔

○基調講演

「歴史学・歴史教育の『分断』を越えて－静岡地域の高大連携・教員養成と日本史・世界史の統合－」

講師　静岡大学人文社会学部教授

岩井　淳　様

参加者　３２名

2　地理研究会

期　日　平成29年8月9日(水)・10日(木)

会　場　十日町高等学校

○講演(９日)

「大地の芸術祭　豪雪ブランディング」

講師　十日町市役所産業観光部部長

渡辺　正範　様

○巡検(10日)

「十日町市のふるさとづくり・まちづくり～十日町市本町・松代地域の取組から学ぶ～」

十日町駅～十日町市博物館～産業文化発信館「いこて」(佐藤可奈子様より講演)～本町商店街～十じろう～十日町駅～まつだい駅～まつだいカールベンクスハウス～まつだい駅

3　公民研究会

期　日　平成29年10月12日（木）

会　場　新潟江南高等学校

○実践報告

「他者を通じて自己の確立を目指す取り組み～倫理の授業より～」

（報告者）

十日町高等学校教諭　風間　春菜

○講演・模擬講義

「主体的・対話的で深い学びを目指した公民科の授業」

講師　新潟大学創生学部准教授

田中　一裕　様

参加者　２７名

4　研究成果の刊行

『地理歴史・公民研究』第５６集の刊行

(写真)

（6月30日　研究協議会）

数学部会

1　全県研究会

(1) 数学教育研究会

期　日　平成２９年６月３０日（金）

場　所　じょいあす新潟会館

講　師　新潟大学理学部数学科教授

小島　秀雄　様

講　演

『 多項式に関する話題 』

研究発表

『 新潟大学入試問題の分析について 』

県立国際情報高等学校教諭　　渡辺　篤

参加者　７５　名

(2) 全県研究協議会

期　日　平成２９年１０月２日（月）

場　所　長岡市地域交流センター

まちなかキャンパス長岡

講　師　東京理科大学大学院

科学教育研究科長教授

伊藤　稔　様

講　演

『指数の歴史』

研究発表

『生徒が互いに協力し主体的に参加する

授業での試み 』

県立新潟高等学校教諭　　小口　洋平

参加者　８１　名

2　地区研究会

(1) 中高連絡協議会

期　日　平成２９年１１月１７日（金）

場　所　県立新潟中央高等学校

講　師　県教育庁高等学校教育課指導企画振興係指導主事

宮澤　雅樹　様

講　演

『授業改善の視点について』

公開授業

県立新潟中央高等学校教諭　清水　健司

中條　　彩

参加者　６３名

(2) 上越地区研究協議会

期　日　平成２９年１２月１日（金）

場　所　柏崎市立図書館（ソフィアセンター）

講　師　東京大学大学院教育学研究科教授

市川　伸一　様

講　演

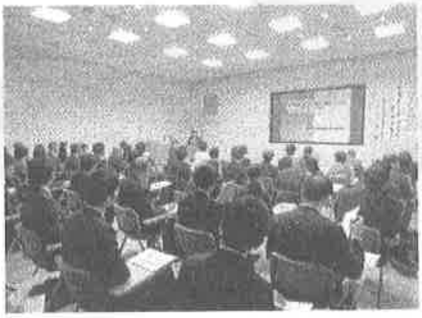
『数学授業における「主体的・対話的で深い学び」～習得・活用・探求を通して～』

研究発表

『 能動的に学ぶ生徒の育成～生徒同士の関わり合いを意識した授業の取組～ 』

県立新井高等学校教諭　　土田　温子

参加者　６４　名



市川先生の講演

3　会議

期　日　平成２９年６月３０日（金）

場　所　じょいあす新潟会館

議　題　(1)平成２８年度事業・決算報告

(2)平成２９年度事業・予算案審議

出席者　７５　名

4　広報・研究成果の刊行

(1) 平成２９年度数学部会会員名簿の発行

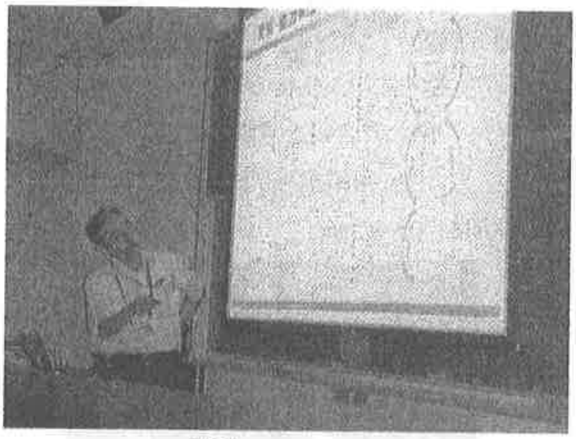
(2)「数学教育研究集録」第５６号の刊行

理 科 部 会

1　役員会

【1】第1回役員会

1　期　　日　平成２９年7月５日（水）
2　会　　場　上越教育大学
3　参 加 者　１９名
4　講　　演
「理科教育・教育実践について、
　　　　　　　上越教育大学の取り組み」
　上越教育大学　教授　五百川　裕　様
5　施設見学
6　議　　題　H28 事業報告　決算報告
　　　　　　H29 事業計画　予算案
　　　　　　役員改選　その他



講演の様子

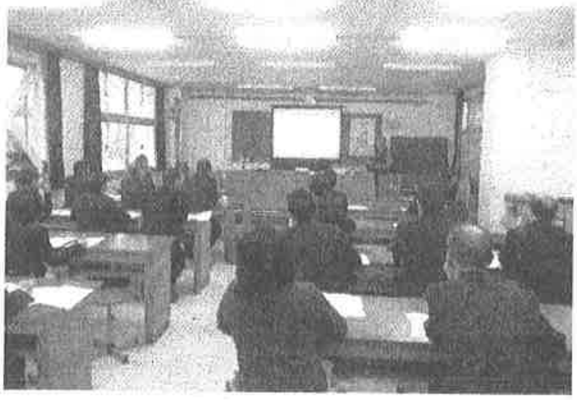
【2】第2回役員会

1　期　　日　平成３０年2月7日（水）
2　会　　場　新潟工科大学
3　参 加 者　２０名
4　研 修 会
「教育現場におけるＩｏＴの活用事例」
　新潟工科大学　工学部　工学科
　　　　　　　教授　佐藤　栄一　様
5　施設見学
6　議　　題　H29 事業報告　決算報告
　　　　　　H30 事業計画　予算案
　　　　　　役員改選 その他

2　研究会

【1】物理教育研究会

1　期　　日　平成２９年１２月１５日（金）
2　会　　場　県立新潟中央高等学校
3　参 加 者　２６名
4　研究発表
「結論から推論させる教材の一例」
　　新潟県央工業高等学校　山本　　岳
「復習として、または講習における実験の導入」
　新潟高等学校　小熊　好弘
「新潟中央高等学校における物理の授業実践」
　　　新潟中央高等学校　本田　　崇
5　講　　演
「物理教員養成の問題点と中学・高校の物理教育」
福井県教育総合研究所
　先端教育研究センター　　川角　博　様
6　研究協議
「何をもって『深い学び』が実現されると言えるのか」



講演の様子

【2】化学教育研究会

1　期　　日　平成２９年１１月２１日（火）
2　会　　場　県立柏崎高等学校
3　参 加 者　２４名
4　研究発表
「マイクロスケールによる反応速度の実験」
　　　　五泉高等学校　中村　有里
「柏崎高校のＳＳＨについて」
　　　　柏崎高等学校　佐藤　喜広
5　講　　演
「子ども達の一生涯を幸せにする高校教師になるために『主体的、対話的で深い学び』とは何か？」
上越教育大学教職大学院
　　　　　　　教授　西川　純　様

研究発表「反応速度の実験」

講演の様子

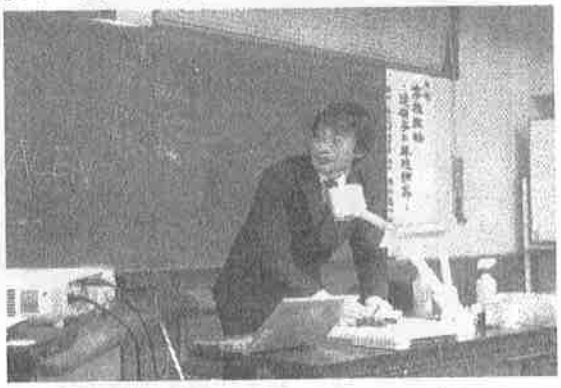
【3】生物教育研究会

1　期　　日　平成２９年１２月５日（火）
2　会　　場　県立三条東高等学校
3　参 加 者　２５名
4　研究発表

「５年目のＳＳＨについて」
　　　　　　　　長岡高等学校　木山　和幸

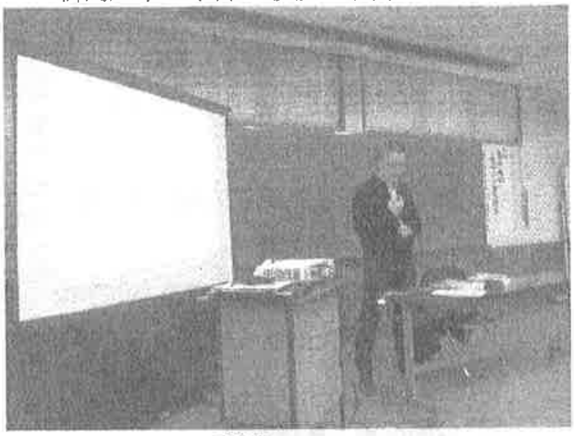
「主体的対話的で深い学びに向けて」
　　　　　　県立教育センター　帆苅　　信

「簡易血糖測定器を活用した恒常性の単元で行う演示実験」　新潟明訓高校　間島　啓太



研究発表「簡易血糖測定器を活用した演示実験」

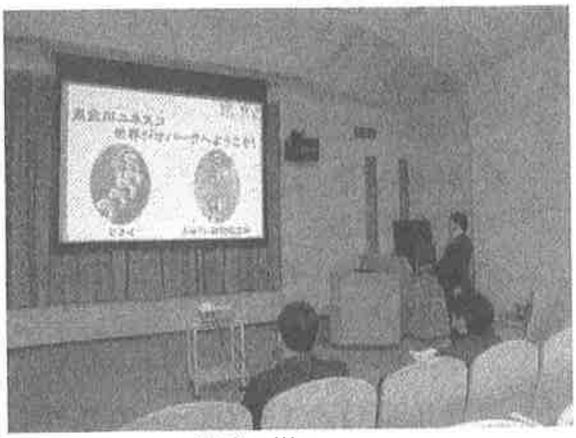
5　研究協議
6　講　　演「高校生物～遺伝子の発現調節～」
　新潟大学理学部　教授　酒井　達也　様



講演の様子

【4】地学教育研究会

1　期　　日　平成２９年１１月９日（木）
2　会　　場　フォッサマグマミュージアム
3　参 加 者　９名
4　講　　演
　「フォッサマグマ地域の地質について」
　フォッサマグマミュージアム　学芸係
　　　　主事　学芸員補　小河原　孝彦　様
5　巡検会（糸魚川市市）
　案内　フォッサマグマミュージアム
　　　　学芸係　主事・学芸員補
　　　　　　　　小河原　孝彦　様



講演の様子

芸術部会

1　公開授業・研究協議会・総会

期　日　平成 29 年 6 月 23 日（金）
11:00〜15:30

会　場　新潟県立新発田南高等学校
（公開授業）
新潟県立新発田農業高等学校
（研究協議・総会）

（1）公開授業・実践発表
（11:00〜11:50）

＜音楽＞公開授業
新発田南高等学校教諭　保科　誠一郎
「見上げてごらん夜の星を」同声２部合唱

＜美術＞授業見学
新発田南高等学校講師　渡辺　陽介

＜書道＞公開授業
新発田南高等学校教諭　芳賀　祐子
「漢字の書の制作『刻字』」

（2）研究協議会及び分科会
（13:30〜15:30）

（3）総　会
（15:30〜16:30）

ア　開会挨拶
芸術部会部長
新発田農業高等学校長　大田　英則

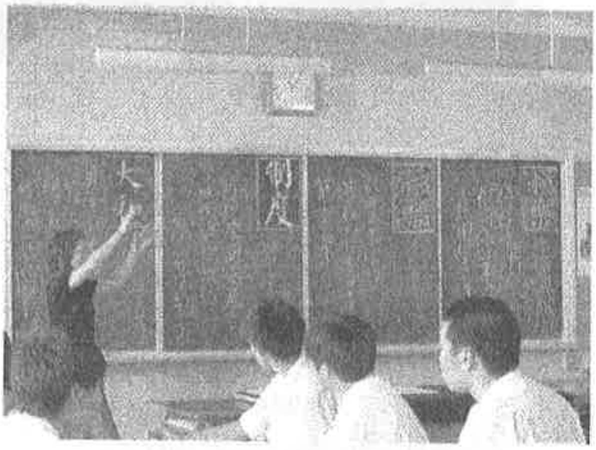
イ　当番校長挨拶
芸術部会部長
新発田農業高等学校長　大田　英則

ウ　議　事
・平成 28 年度事業報告
・平成 28 年度決算報告
・平成 29 年度役員案
・平成 29 年度事業計画案
・平成 29 年度予算案
・平成 30 年度当番校について
・部会特別会計について
・規約の変更について
・部会会計処理方法の変更について
・その他

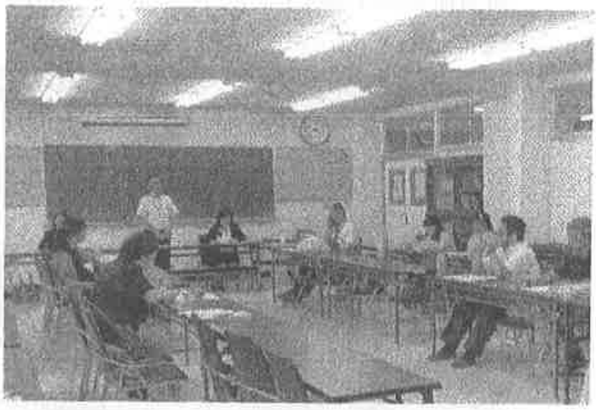
エ　分科会報告

オ　連　絡
・総会・各科研修会の役割分担のお願い
・その他

カ　閉会挨拶
芸術部会副部長
出雲崎高等学校教頭　小堺　さとみ



公開授業（於：新発田南高等学校）



総会（於：新発田農業高等学校）

2　各科研修会

■音楽科研修会

期　日　平成29年10月23日（月）
会　場　県立新潟中央高等学校
内　容　ロシアンメソッドピアノレッスン見学
　　　　音楽棟施設説明
　　　　音楽科授業見学
　　　　研究協議
参加者　11名

[ロシアンメソッドピアノレッスン]
曲目　ラフマニノフ作曲「音の絵」よりⅡ、Ⅳ
　Ⅱ　Ｃｄｕｒ
新潟中央高等学校ホール
講師　モスクワ音楽院
　　　ベニヤマン・コロボフ　氏

ひととおり演奏を終えてからレッスンが開始されました。Ⅱの終結でｒｉｔの感じ方、漫然とでなく、テンポの変化の中でも拍子感を失わないように、そして正確な時間感覚を持って演奏するように、指摘があった。

冒頭で第Ⅲ音が抜けた、分散和音はロシアの荒涼とした大地を表現するようにとの指摘。

日本のような山地が多い土地とは全く異質なイマジネーションを必要とすることを強調された。

コロボフ先生のパッションあふれる演奏もさることながら、指摘していることは極めて論理的。フォルテの箇所は倍音の多いことをよく意識して音の重なりを表現するように、また重音による速いパッセージも動きのある音の変化を強調して表現するように等、ピアノ曲でありながら、音楽の法則を掘り出しながらのレッスンが腑に落ちる思いだった。

[研究協議]
各校より器楽指導の授業の取り組みと課題を発表

平成29年度伝統音楽指導者研修会（報告）
県立長岡徳高等学校　　星野　睦美　教諭

1　目的　音楽を担当する指導主事に対し、実技を中心とした研修をとおして、我が国の伝統音楽について学習指導要領の趣旨を踏まえた必要な技能等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言が受講者により行われることを目的とする。
2　主催　文部科学省
3　共催　国立大学法人東京藝術大学
4　期日　平成２９年８月２日（水）・３日（木）
5　日程
　第１日
　　１０：００～１０：４０　開会式・講話
　　１０：４０～１２：３０　実技研修①
　　１３：３０～１５：３０　実技研修②
　　１５：５０～１７：００　鑑賞研修
　第２日
　　９：２０～１１：４５　実技研修③
　　１２：３０～１３：３０　実技研修④
　　１３：３０～１５：３０　演奏発表
　　１５：３０～１５：５０　閉会式
　　１５：５０～１６：３０　協議会
6　会場　国立大学法人東京藝術大学

■美術・工芸科研修会

期　日　平成29年8月10日（木）
会　場　ギャラリーみつけ
内　容　実技講習会「純銀粘土と他種素材の組み合わせによるアクセサリーの制作」
参加者　11名
講　師　結城　孝子　氏

【研修内容】

〈制作日程〉

①デザイン決め・銀粘土成形・乾燥
②ＵＶレジン、金メッキ実演鑑賞
③銀粘土焼成・乾燥
④ＵＶレジン・研磨
⑤作品鑑賞会

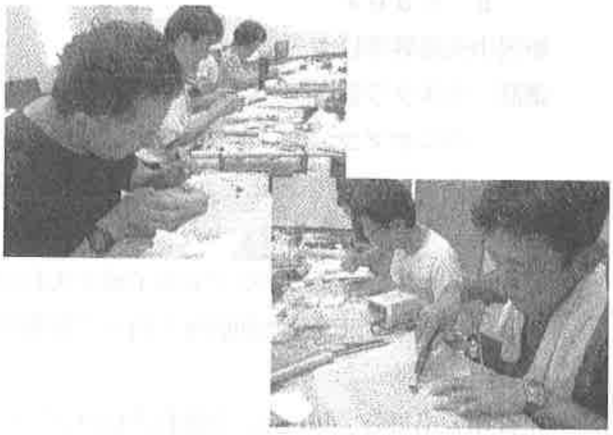
今回の講習では、粘土細工の要領で自由に形を作り、焼成により純銀になる純銀粘土と、紫外線で硬化するＵＶレジンを組み合わせた作品制作を行った。

純銀粘土は比較的高価なため、授業で教材として扱いやすいサイズのキーホルダーやペンダントなど装飾品の参考例を基に、純銀粘土とＵＶレジンの扱いについて学んだ。

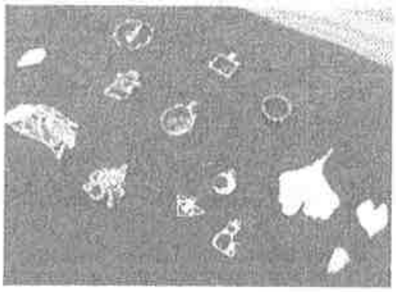
純銀粘土の造形は、粘土が含む水分量をコントロールしながら手際よく成形しなければならず難しいが、水を加えることでやり直しがきくため、参加者は素材に慣れながらデザインを変更したり、講師のアドバイスを受け単純化したりしながらの制作となった。

純銀粘土は複数のメーカーから販売されているが、今回は七宝用の電気炉で１分間焼成するものを使用。教材としては少々高価だが、組み合わせて使用するＵＶレジンは現在100円均一ショップなどでも手軽に手に入れることができる。太陽光でも硬化するため比較的扱いやすい素材であり、他の素材との相性もよく応用が利きそうである。

今回は純銀粘土で作ったフレームにレジンを流し込む方法や、浮き彫り上にした凹みに流し込む方法などを学んだ。デザインに合わせてレジンに色をつけるなど、銀と透明素材のコラボレーションを楽しみながら制作し、最後に作品を鑑賞し講師による簡単な講評を行った。



↑作品鑑賞と講師による講評



←完成作品

■書道科研修会

期　日　平成29年8月18日（金）

会　場　県立新潟商業高等学校

内　容　講演会及び作品鑑賞

参加者　23名

講　師　萬羽軒店主　萬羽　啓吾　氏

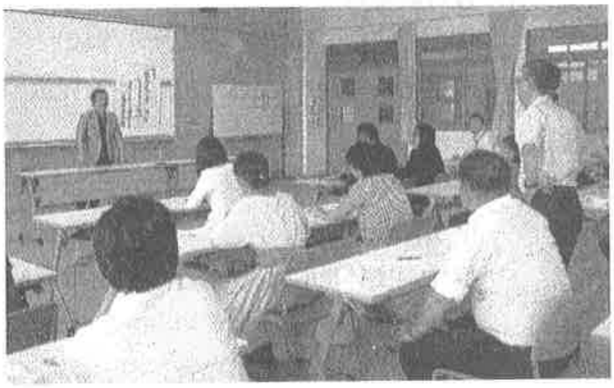
演　題　「仮名の成り立ちについて
　　　　　—良寛の仮名を中心に—」

今回の講演会講師の萬羽啓吾氏は新潟のご出身であり、仮名の書の成り立ちについて独自の考えをお持ちの方である。

万葉仮名から始まり、草仮名、女手へと変遷していったという考え方が、現行の教科書等にも示されている仮名の成り立ちであるが、これに異を唱える考えを示されるお話は、新鮮であり驚きでもあった。

現在一般的に考えられている万葉仮名からの変遷における矛盾点、紙の炭素成分による古筆の年代測定による考察、時代背景から考えられる根拠を示し、仮名は初めから仮名として出現したと言い切る萬羽氏の口調は歯切れ良く爽快であり、また大変興味深い講演であった。
書を学ぶ者として、新たな知識を得られる喜びだけでなく、大いに刺激を得る機会となった。

また、良寛の作品についても言及され、良寛の書に対する姿勢や良寛の人柄などのエピソードは、書作品を学ぶ上で多面的なものの見方が重要であること、そういった見方をするとそれまで見えなかった作品の面白さがうかがえるのだと感じた。



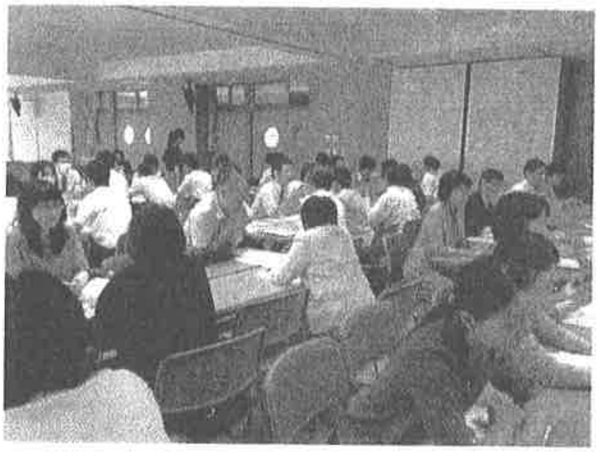
さらに今回は、重要美術品の古筆手鏡をはじめ、良寛、定家の書を間近で拝見することができた。

大変貴重な経験となり、参加者全員が今後の書教育に対する思いを新たにするとともに、糧を得ることができた。萬羽氏の幅広い知識に基づく講演と作品鑑賞は、あっという間の2時間半であり、とても充実した研修会であった。

英語部会

1　公開授業および研修会

期　　日　6月23日（金）
場　　所　県立新発田高等学校
参 加 者　80名
内　　容
（1）授業公開
　根立　望　　　　　（県立新発田高等学校）
（2）指導・助言
　太田　光春　先生（名古屋外国語大学）
（3）授業研究およびワークショップ
　根立　望　　　　　（県立新発田高等学校）
　内川　未奈希　　　（県立新発田高等学校）
　荒木　美恵子　　　（県立長岡高等学校）



（研修会におけるワークショップでの様子。）

2　夏季研修会

期　　日　8月21日（月）
場　　所　県立長岡大手高等学校
参 加 者　109名
内　　容
（1）分科会発表
　①小林　将大　（県立佐渡中等教育学校）
　②水戸　直和　（県立村上中等教育学校）
　③荒木　美恵子（県立長岡高等学校）
　④栗本　美紀　（県立長岡向陵高等学校）
　⑤金子　暢也　（県立新潟西高等学校）
　　長谷川　誠　（県立加茂農林高等学校）
　⑥江見 志保、室本　隼人、板場　康子
　　　　　　　　（県立村上高等学校）
　⑦高松　利治　（県立荒川高等学校）
　　南雲 悠　　　（県立新発田高等学校）
　⑧湧井 知恵　（県立長岡高等学校）
　⑨松井 市子　（県立津南中等教育学校）
　　根本 栄一　（県立長岡工業高等学校）
（2）授業研究およびワークショップ
　根立　望　　（県立新発田高等学校）
　髙橋　有香　（県立新潟中央高等学校）

3　全英連新潟大会

期　　日　11月22日（水）、23日（木）
場　　所　りゅーとぴあ、朱鷺メッセ
参 加 者　1，215名
内　　容
（1）講演
　太田　光春　先生（名古屋外国語大学）
　「コミュニケーション能力の育成をめざして
　　～自律した学習者を育てる～」
（2）授業実演
　①村上 大樹　（新潟市立上所小学校）
　②中川 久幸　（新潟市立小針中学校）
　③根立　望　（県立新発田高等学校）
（3）分科会発表
　①村上 大樹　（新潟市立上所小学校）
　「相手意識をもって、やりとりする児童の育成」
　②吉川 純子、野澤 奈央、星野 けい子（長岡市教育委員会）
　「担任が主体的に取り組む外国語教育を目指して ～長岡市の取り組み～」
　③髙田 哲也　（新潟市立寄居中学校）

「新潟市中教研英語部の取組 ～地域の英語教師の協働性を高めるために～」
④佐藤 正秀（長岡市立南中学校）
「「ジャーナル」を活用したライティング指導 ～書くことの fluency の育成を目指して～」
⑤水谷 桂介（上越市立城北中学校）
「All in English で行う授業の在り方 ～中学校教員と生徒の意識調査を通して～」
⑥小林 将大（県立佐渡中等教育学校）
「中等教育学校における前期・後期課程連携」
⑦根立 望 （県立新発田高等学校）
「生徒が自己表現活動を楽しむ授業作りと教師の役割」
⑧水戸 直和（県立村上中等教育学校）
「運用力と発見力・思考力・創造力を育む英語授業～リテラチャー・サークル,データ駆動型学習，ジャンル準拠ライティングの統合の試み」
⑨荒木 美恵子（県立長岡高等学校）
「授業改善プロジェクト（プロジェクト・スマイル）」
⑩栗本 美紀（県立長岡向陵高等学校）
石井 美乃（県立長岡農業高等学校）
「パフォーマンス課題を取り入れたより良い評価に向けた取り組み」
⑪須貝 文弘（県立新潟高等学校）
"Teaching English with Technology: Developing Interactive Learner-centered Activities"
⑫高橋 有香 （県立新潟中央高等学校）
「思考力をアクティブに！主体性を目覚めさせる魅力的な表現活動とその評価方法とは」
⑬本田 由佳 （茨城県立境高等学校）
「思考力・判断力・表現力の育成を促す能動的なリーディング指導 ～Information Transfer を目指したアクティブ・ラーニング型授業を通して～」
⑭山際 奈穂子（新潟市立浜浦小学校）
「目的意識をもち、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」
⑮渡邊 友也（糸魚川市立根知小学校）
「仲間と積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ～「伝えたい」「聞きたい」という思いを 膨らませる外国語活動の工夫～」
⑯中川 久幸（新潟市立小針中学校）
「やりとりを通して自分の考えを伝えることができる生徒の育成」
⑰安宅 いずみ（新潟市立鳥屋野中学校）
間 美和（新潟市立亀田西中学校）
「生徒が We can do it !と実感する英語授業～学習・練習・評価タスクの工夫を通して～・ジャンル準拠ライティングの指導と評価・まとまりのある英文を主体的に読む生徒を育てるリーディングタスク活動」
⑱藤巻 洋生
（新潟大学教育学部附属長岡中学校）
「グローバル社会において、英語で自分の考えを発信できる生徒の育成 ～留学生との交流を通して～」
⑲杵渕 貢 他 小中教諭（燕市教育委員会）
「行動目標と共同的指導体制でつなぐ小中の英語教育～7年間を見通した CAN-DO リストとバックワード・デザインによる指導実践を通して～」
⑳江見 志歩、室本 隼人、坂場 康子
（県立村上高等学校)、新潟県立教育センター
「小中高を郷土愛でつなぐ英語教育」
㉑高松 利治（県立荒川高等学校）
南雲 悠（県立新発田高等学校）
「「大学入試」の先にある「英語が使えること」を目指した指導」
㉒湧井 知恵（県立長岡高等学校）
「「チームワーク」で英語力を伸ばす！生徒が自律した学習者になるための具体的な指導法」
㉓松井 市子（県立津南中等教育学校）
根本 栄一（県立長岡工業高等学校）
「実業系高校におけるディベート・ディス カッションの取り組み事例」

㉔丸山 智恵子（県立国際情報高等学校）
「思考力と協働力の育て方・測り方」
㉕金子 暢也（県立新潟西高等学校）
長谷川 誠（県立加茂農林高等学校）
"Developing Social and Emotional Skills in Harmony with Academic Skills through Fostering Teams of Students and Portfolio Assessment"
㉖河野 和幸（群馬県立前橋女子高等学校）
「思考力を育てるパラグラフ・ライティング指導 ～クリティカルに物事を捉えながら～」

（「全英連新潟大会」における根立　望　先生と２年６組のみなさんの授業の様子。）

４　高校生英語スピーチコンテスト

［予選］

期　　日　１０月７日（土）
場　　所
（上越・中越）柏崎エネルギーホール
（佐渡・下越）県立生涯学習推進センター
参 加 者　７６名

［本選］

期　　日　１１月５日（日）
場　　所　県立生涯学習推進センター
参 加 者　２０名

５　高校生英語ディベート大会

期　　日　１０月１４日（土）
場　　所　新潟国際情報大学
参 加 者　１４チーム（６校）参加

６　刊行物

「高教研英語部会誌　第６２号」の刊行
（内容）夏季研修会報告
全英連新潟大会報告
その他

（文責　荒木美恵子）

農業部会

平成29年度新潟県高等学校

農業教育研究大会報告

当番校　新潟県立新発田農業高等学校

目　　的

新しい時代に農業教育の実現に向けて、本県の農業及び農業教育が当面する課題について研究協議を行い、教職員の資質・能力の向上と農業・農業教育の発展・振興に資する。

大会スローガン

地域との共生を目指した農業教育を推進しよう

期　　日　　平成29年8月21日（月）
会　　場　　じょいあす新潟会館
日程および次第

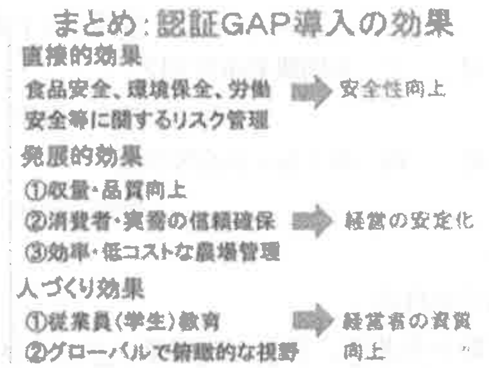
10：00	～	10：30	受付
10：30	～	10：50	開会式
11：00	～	11：40	農場協会総会
11：40	～	12：30	昼食休憩
12：30	～	14：00	講演会
14：15	～	16：05	分科会
16：20	～	16：50	全体会
16：50	～	17：00	閉会式

講演会

演題「GLOBAL G.A.Pの認証取得について」
講師　新潟県農業大学校　稲作経営科長　長
谷川　雅義　様

GAPの概念や導入段階の手順について、大学校での取り組みの紹介をいただいた。

ＧＡＰを取ることによって、消費者や実需の信頼性が確保され、効率的低コストな農場管理が可能になり、経営の安定化が図れることになる。また、今回の大学校の取り組みを通じて人づくり効果というものもあると実感した。たとえば従業員とか学生教育の部分でも役立ち、グローバルで俯瞰的な視野を養うことによって、経営者としての資質の向上が出来るのではないかとも思ってい



る。この３つの効果を考えた時にこれからも継続してＧＧＡＰの導入というのを大学校で進めていきたいと思っている。

分科会

第一分科会
「地域や社会の健全な発展を担う人材育成について」
指導助言　新発田農業高等学校
校長　大田　英則

発表　　長岡農業高等学校

教諭　若杉　祥彰

司会　　高田農業高校

教諭　青木　彰

記録　　巻総合高等学校

実習助手　大橋　清喜

第二分科会

「地域貢献・連携を進める地域資源を生かした教育活動について」

指導助言　高田農業高等学校

校長　熊倉　肇

発　表　加茂農林高等学校

教諭　五十嵐正博

司　会　長岡農業高等学校

教諭　海津　整也

記　録　村上桜ヶ丘高等学校

教諭　阿部　久直

第三分科会

「新大会基準に基づいた農業クラブ指導方法について」

指導助言　長岡農高等学校

校長　中村　満夫

発　表　高田農業高等学校

教諭　羽二生喜國

司　会　加茂農林高等学校

教諭　原　正博

記　録　十日町総合高等学校

教諭　髙橋　正和

「生きる力」を育むという理念の具体化を図るため、「何が出来るか(知識・技能の習得)」、「どう使うか(思考力・判断力・表現力の育成)」、「社会との関わり、よりよい人生を送るか(学びを生かす力・主体性・協調性・人間性など)」。主体的・対話的で深い学びを意識することが今後の学習に必要とされるとある。農業教育はすでにこのような教育活動を行っており、さらに、地域や産官学との連携を図ることにより、高校生が主体的となって地域との関わりを持ち、地域に根ざした活動を行うことは、生徒に自信を与え将来地域社会に求められる実践力を身につけた人材の育成に繋がると考える。

「地域貢献・連携を進める地域資源を生かした教育活動」を行うためには①システム化が必要である。②個（教諭個人）の取組みではなく、継続できる組織（学科又は学校）として取り組まなければならない。③各種イベントの参加が参加のみのお祭りで終わらせないために、振り返り学習を行い、学習効果を高めなければならない。

「農業クラブ指導」については、①早い段階からの研究開始、②クラブ活動（放課後活動）としての位置づけ、③全校生徒への意識の啓発が求められる

魅力ある農業教育を目指すためには、すべての生徒が自分の夢を持って毎日充実した生活を送り、卒業後は多くの生徒が地元に残って地域農業や地域産業を担い、豊かな生活を送る。また、学校は地域からの期待に、今後とも応え、貢献していくことが求められている。

新しい農業の可能性を発信できる取り組みが、今後期待される研究大会であった。

農業教育課題研究会　報告

当番校　新潟県立高田農業高等学校

1　テーマ

食品の安全衛生管理の実際
～地域特産品開発と６次産業化の取り組みにおける安全管理について～

2　目　的

食品の安全性に関わる実務の担当者に対して求められる、製造物責任法や食品の危害分析、重要管理点方式に関する知識と技術を身につけ、食品の安全管理に関する実践的な指導力を向上させる。

3　期　日　　平成29年12月8日（金）

4　会　場　　新潟県立海洋高等学校
大会議室他

5　日　程

12:45～13:00　受　付

13:00～13:05　開会式
13:05～13:20　趣旨説明および基調提案
13:20～14:10　実践発表（海洋高等学校）
（1）食品安全管理システムについて
・実習への導入経緯
①導入に当たっての手順
②導入したことで起こった変化など（学校・職員・生徒）
③導入後の問題点　など
（2）地域特産品開発について
・製品開発とマーケティングについて
（3）6次産業化に向けての取り組み
・組織の形態
・設立の経緯
・製品開発とマーケティングについて
14:25～14:50　安全衛生管理について（保健所）
15:00～16:00　実践発表・施設見学
16:15～16:50　研究協議
（各校からの意見集約、協議）
16:50～17:00　閉会式

6　参加者（１１名）

高田農業高等学校長	熊倉　肇
新発田農業高等学校	進藤　哲夫
	井澤　美樹
巻総合高等学校	磯田　芳男
加茂農林高等学校	大﨑　隆
	高橋　幸太郎
長岡農業高等学校	若杉　祥彰
	羽深　良一
柏崎総合高等学校	樺澤　直博
高田農業高等学校	廣瀬　久人
	鈴木　孝紀

7　趣旨説明・基調提案

当番校より、本研究会の目的として近年の食品製造に関する安全性の評価が、危害分析・重要管理点方式に見られるような、技術教育の視点からの指導が必要であることから、食品の安全性に関わる実務の担当者に対して研修内容を設定したことを説明した。また高校での食品の安全管理に関する実践的な指導力を向上させるため、先行して取り組んでいる県立海洋高等学校の協力をいただいて海洋高校を会場にした研修を行うことを説明した。

8　実践発表（県立海洋高等学校）

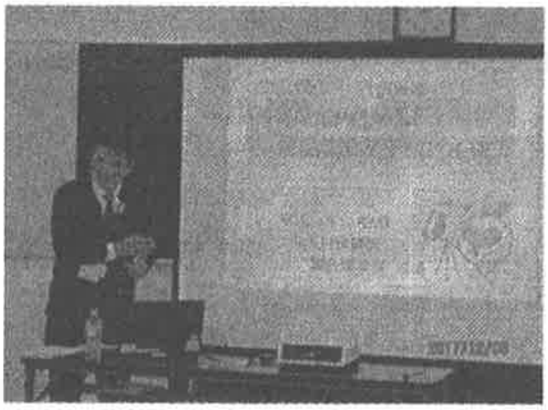
県立海洋高等学校　松本 将史 教諭から、食品安全管理システムHACCPについて発表をいただいた。7原則１２手順について非常に詳細で実践的な内容での説明であり、今後の各校での導入に当たって参考となるものであった。内容は以下の通りである。

手順１　HACCPチームの編成
手順２　製品説明書の作成（安全性に関する必要な事項）
手順３　用途・対象者の確認
手順４　製造工程図の作成
手順５　製造工程図の確認
手順６　危害要因の分析（原則１）
手順７　重要管理点の決定（原則２）
手順８　管理基準の決定（数値的指標・官能的指標）（原則３）
手順９　モニタリング方法の決定（頻度・担当者・記録者）（原則４）

手順10　改善措置の決定（製品・工程）（原則５）
手順11　検証について（定期的な見直し）（原則６）
手順12　記録の文書化・保存（CCP のモニタリング記録）（原則７）

9　講義（糸魚川保健所）

講師として糸魚川保健所の　渡邉 修　様から、HACCP による食品衛生管理について、全事業者を対象とした制度化（義務化）の検討についての解説と、基準A・Bの適用について解説をしていただいた。また、食品衛生法改正の動向についても説明いただき、許可制度の見直しや営業届出制度の創設、食品用器具・包装容器の規制の見直し、食品リコール情報を把握する仕組みの構築などが現在検討されている状況について説明があった。



10　実践発表・施設見学

実践発表の後半では、県立海洋高等学校松本 将史 教諭から、地域特産品開発や６次産業化に向けての取り組みを説明していただいた。授業における商品開発とマーケティングが海洋高校の一般社団法人能水会にて商業化されていることが紹介された。これらの活動により、起業家精神の育成や地域のリーダーとなる人材育成につながっていることが発表から感じられた。また、これらの取り組みが成果をあげている要因の一つは担当する教諭の理解度が大きな要因として考えられ、職員の連携しながら意欲的に取り組むことの重要性の説明があった。

施設見学では、水産品の加工実習室においてHACCP の手順に則った入室方法や各工程での処理、記録の文書化について詳細な説明があった。

11　研究協議

研究協議では今後の各校における安全衛生管理について、今回の研修を元に意見交換を行った。研修に参加された教職員は各校において食品の安全性に関わる実務の担当者であることから、今後の対応について活発な意見交換が行われた。

12　指導助言

（当番校　高田農業高等学校長　熊倉肇）

先進的な取り組みをされている海洋高校の実践内容を各校へ持ち帰り、今後の安全衛生管理の体制構築に生かしてほしい。また、商品開発やマーケティングなどの学習や研究をとおして人材育成や魅力ある農業教育の発展に努めてほしいとのご指導をいただいた。

農業教育課題研究会　報告

当番校　新潟県立加茂農林高等学校

1　テーマ

フラワーアレンジメント　について

2　目　的

農業教員の資質の向上とフラワーアレンジメント技術の浸透を目的とし、平成３１年度に本県で開催される産業教育フェアに向け、草花担当教員の意識の向上を目指す。

3　期　日

平成２９年１１月１３日（月）

4　会　場

県立加茂農林高等学校　会議室

5　日　程

9:30～10：00	受付
10：00～10：10	開講式・講師紹介
10：10～12：30	フラワーアレンジメントの制作・解説
12：30～13：30	昼食
13：30～14：50	フラワーアレンジメントコンテストの概要
15：05～15：30	フラワーアレンジメントコンテスト 大会規則・基準の変遷と作品
15：30～15：45	閉講式

6　参加者（７名）

No	高校名	職名	氏　名	本年度担当教科
1	高田農業	教諭	羽二生　喜國	草花
2	新発田農業	教諭	行木智子	生物活用
3	村上桜ヶ丘	教諭	近藤和之	草花
4	長岡農業	教諭	石田理恵	草花
5	柏崎総合	教諭	樺澤直博	農業
6	加茂農林	教諭	塚野英人	草花
7	加茂農林	教諭	永井裕子	果樹

7　フラワーアレンジメントの制作・解説

平成３１年度に新潟県で開催予定の産業教育フェアでは、フラワーアレンジメントコンテストが実施され、本県の農業高校の担当者がその運営にあたることとなる。県内でフラワーアレンジメントを授業に取り入れている学校はあるが、その学習内容は様々である。園芸装飾技能士３級の取得を目指すところもあれば、数回授業で体験するだけの学校もある。また、過去の産業教育フェアのフラワーアレンジメントコンテストへの参加校は、本県では新発田農業高等学校だけである。更にフラワーアレンジメントを指導できる教員も数少ないのが現状である。授業者の指導力もまだ十分と言えない。これに関して、教員の指導力の向上を図りさらには競技者としての生徒を育成していくため、課題研究会の内容をフラワーアレンジメントの講習とした。

今回は、県内の草花担当の教員が集まり、実際にアレンジメントを作成して基本を学び、また、過去のフラワーアレンジメントコンテストの引率者から講演を聴くことで、コンテストまでの指導の流れを把握した。そして、これまで開催された競技会の大会規則・基準を確認することでフラワーアレンジメントコンテストのあらましをつかんだ。

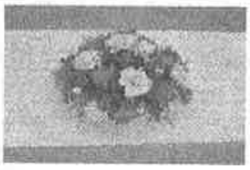
フラワーアレンジメント制作の講師には、新発田農業高校で長年非常勤講師を務められた猪俣悦子先生にお願いしご指導をいただいた。猪俣先

生はNFD（日本フラワーデザイナー協会）一級・講師の資格を有しており、県内の様々なイベントでアレンジメントを作成しておられる。このような方からアレンジの方法や制作のポイントなど、具体的に丁寧に教えていただき、現役の教員にもすぐに役立つことが多かった。

以下にアレンジメントの流れを紹介する。

①アレンジメントに必要な道具	②フラワーベースにナイフで線を付ける
③花器にベースをセッティング	④使用する花材を机上に並べて

⑤中心から花を刺していく	⑥骨組みが完成。

⑦刺し方を図解して説明	⑧隙間無く花を刺す
	
⑨１時間足らずで完成。	⑩猪俣先生の作品。

８　フラワーアレンジメントコンテストの概要

フラワーアレンジメントコンテストの概要として、今年度秋田大会に出場した新発田農業高等学校から発表をしていただいた。また、審査員奨励賞を獲得した作品の画像や、参加までの練習の様子、普段の授業の様子などを画像で見ることができた。急遽決まった秋田大会の参加という状況で、外部講師の指導の様子なども話していただいた。秋田大会では、当日発表された花材を「上手く使うことができてほっとした」という実感のこもったお話もあった。行木教諭の発表には参加者から積極的な質問があり、講師の依頼料や花材費などにも話が及んだ。

次に過去の大会の画像を見ながら会場のレイアウトや競技者の様子、開閉会式など、実際の様子を比較した。アリーナやホールをコンテスト会場にした県がある一方、会議室やホールのエントランスで行われた県もあった。各大会で異なる雰囲気を感じながら、新潟大会へ具体的なイメージが湧くような説明であった。

最後に長年競技の指導や大会の引率を行ってきた、加茂農林高等学校の塚野教諭がパワーポイ

ントを用いて発表した。北海道大会に参加された時のパワーポイントをもとに報告が行われた。そこには出場者の決定から、アレンジメントのデザイン決定、開催県までの移動の様子や前日のホテルでの自主練習などについてわかりやすい説明があった。

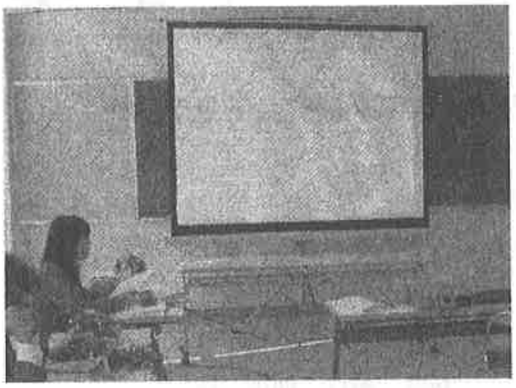
9　フラワーアレンジメントコンテスト大会規則・基準の変遷と作品

最後に、フラワーアレンジメントコンテスト大会規則・基準の変遷と、過去のコンテストで作られた作品の画像を参加者で見た。大会規則・基準は多少の変化はあるものの、大きく変わることはなかった。ただし、農業クラブの全国大会と同時に開催された岐阜大会では、NFD の資格検定試験に基準を合わせていたので、力量が必要なコンテストとなっていた。

１０　おわりに

今回の課題研究会で重視したのは、アレンジメントやコンテストの実際を知る、という点であった。花器にセットしたフラワーベースを埋めるのに、どの位の花材が必要なのか、また、コンテストの様子を目にすることで、会場の広さや参加生徒の人数を知る、ということをねらいにした。これらを知ることにより、アレンジメントのコンテストが2年後に新潟に開催されることを実感することができた。

講習会では当初予定していた時間よりも早くアレンジメントが完成して、参加された先生方の前向きな気持ちを感じることができた。これからは大会の成功を目指して、本県教員が一丸となってコンテストに関わっていきたい。



工業部会

「建築・土木系」研究会・見学会

【研究会】

1　講演

「地域住民との協働を活用する工業教育」

講　師　国立大学法人新潟大学
　　　　工学部工学科建築学プログラム長
　　　　教授　西村　伸也　様

期　日　平成29年10月3日（火）

会　場　県立新発田南高等学校

視聴覚教室

参加者　25名

1997年から2015年まで取り組んだ長岡市栃尾表町区・新潟大学工学部・長岡市の協働による雁木プロジェクトについての活動の経緯や実施内容を写真やVTRにより紹介していただいた。この活動は、学生のデザインによる雁木づくりが地域と一体となって進められていることで、住民、学生、自治体のそれぞれがメリットを享受でき、活動を成り立たせている。

地域住民との協働を活用する工業教育は、実践的な建築プロジェクトを教育の場へ移すこと、地域住民のことを考えた建築家を育てるため住民と学生との協働を大切にすることや、教員の資質向上のためのOJTになり、「町づくりの質を高めること」につながることを認識することができた。

講演の様子

2　研究協議Ｉ

（1）建築系学科

協議題　「平成29年度現在の進路状況」

期　日　平成29年10月3日（火）

会　場　県立新発田南高等学校
　　　　建築科総合実習室

参加者　14名

協議題について各校からの報告のあと、情報交換を行った。

研究協議の様子（建築）

（2）土木系学科

協議題　「高校生ものづくりコンテスト
　　　　　測量部門」
　　　　「平成29年度現在の進路状況」

期　日　平成29年10月3日（火）

会　場　県立新発田南高等学校
　　　　土木科理論実習室

参加者　11名

1つ目の「高校生ものづくりコンテスト測量部門」については、8月に開催された県大会の総括、次年度北信越大会出場枠および次年度からの新課題について協議した。特に、次年度北信越大会出場枠については、北信越大会事務局が東日本高等学校土木教育研究会北信越地区理事会で決定した各県2校出場を覆し、各県1校に戻したことを受け、本県の意向を伝え再検討をお願いすることを確認した。2つ目の「平成29年度現在の進路状況」については、各校からの報告のあと、情報交換を行った。

3　研究協議Ⅱ

「教育の情報化」について

期　日　平成29年10月4日（水）

会　場　県立新発田南高等学校

視聴覚教室

参加者　23名

本研究協議ご参加の県立教育センター教育支援課教育企画班指導主事高橋豊様から教育の情報化の概要、本県のICT活用事例等の情報を提供していただきながら協議を進めた。

ICT機器導入に地域間格差があり、計画的に整備を進めていく必要があること、児童生徒が情報通信技術を適切かつ安全に利用できるよう情報モラル、著作権や情報セキュリティ等についての教育活動も推進する必要があることを認識したとともに教育の情報化の基本的な考え方や目的を共有することができた。

ICT活用の実践例では、全国の12地域および5つの民間団体が遠隔学習導入に向けた実証研究を実施しているとの紹介を受け、参加者からは工業高校では課題研究の2校間での発表会、外部講師による講演会、オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトによる他校との連携、実習等の反転学習等で実践可能ではないかと声が上がった。本県の教育振興基本計画にもICT教育の推進が施策として挙げられており、各教科の目標を達成するための効果的なICTの活用や指導力向上に向けた取り組みを推進しなければならないと感じた研究協議であった。

【見学会】

1　建築施設見学会

期　日　平成29年10月4日（水）

会　場　新発田市役所本庁舎

（ヨリネスしばた）

参加者　22名

大成・新発田・伊藤JVで施工が行われ、今年1月にオープンした新発田市の新庁舎「ヨリネスしばた」についての概要説明を受け見学を行った。建築面積延べ約13000㎡、地下1階地上7階建ての庁舎はRC造の下部とS造の上部階に分かれている。駅前に昨年オープンした複合施設「イクネス新発田」と合わせて、新発田の新しい顔として中心市街地の活性化の一端を担っている。庁舎下部のRC造は壁式ラーメン構造と呼ばれ、巨大な基礎の様な役割を果たし、上部階のS造を支える特殊な構造となっている。中でも特徴的なのは、約666㎡の屋根付きの半屋内広場「札の辻広場」である。開閉可能な 大型シートシャッターによって季節や様々な用途に対応している。全体的に大スパンを成立させるために様々な構造的工夫がなされていた。他にも開放的な議場や、先進技術の取り入れられた設備などを見ることができ、大変ためになる見学会となった。

ヨリネスしばた「札の辻広場」

2　土木現場見学会

講　師　株式会社皆川組

常務取締役　笹川　清　様

現場代理人　堀　伸吾　様

株式会社トップライズ

i-CON推進室　古俣　英二　様

期　日　平成29年10月4日（水）

会　場　阿賀野バイパス新潟安田線IC橋

下部工事現場

参加者　21名

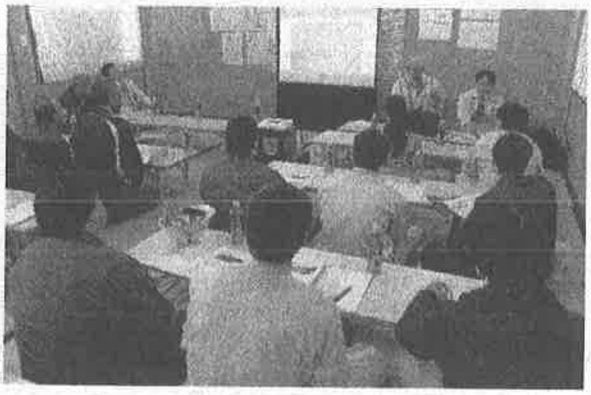
見学に先立ち、笹川様、堀様から工事の概要説明を受けた。工事の目的は、国道49号の阿賀野市水原市街地における交通混雑の緩和および道路交通の安全・円滑化で、工期は、平成29年5月8日から平成30年2月15日までとのことであった。道路土工は、プレロード盛土においてICTを活用しての施工を行い、今回見学の橋台工

は場所打杭工の１つであるオールケーシング工法による施工とのことで、見学時の作業内容は、鉄筋かご建込・コンクリート打設であった。説明後、現場に移動し工事を見学させていただいた。

見学後、現場事務所に移動し、古俣様からICT活用工事について説明を受けた。国土交通省は、建設現場の生産性向上に向けて、測量・設計から施工・検査、さらには維持管理・更新までの全てのプロセスにおいて、情報化を前提とした新基準「i-Construction」を2016年度から導入、特に土工では、情報化施工活用工事の部分的試行から、ICT技術の全面的な活用となり、高効率・高精度な施工、作業の容易さが期待できるとのことであった。

様々な課題に対応するため、社会の各分野におけるICTの効果的な利活用が不可欠であると改めて感じた見学会であった。

現場見学の様子



ICT活用工事説明の様子

（記・新潟県立新発田南高等学校
土木工学科　坂井　忠也）

「電気・電子系研究会・見学会」

【見学会】

期　日　平成29年10月5日（木）

会　場　新潟工業短期大学

参加者　14名

今回見学をお願いした新潟工業短期大学は従来の自動車工業技術に加え、電子制御コースを誕生させた。クルマを学びながら、電子制御技術も身につける事ができる。

最初に、ハイブリッド車・電気自動車の基幹技術について、脇田喜之教授より

①なぜ電気を使う?

②電気自動車が売れていないのはなぜ？

③ハイブリッド車はなぜ燃費が良いのか？

④トヨタ・プリウスのどこが良いのだろうか?

以上の４テーマについて、電気の優位性やエネルギー密度の比較、制御の重要性などの面から講義をしていただいた。

講義の後は、メーカー各社のハイブリッド車・電気自動車を見学した。特にトヨタ・プリウスのハイブリッドシステムの動力分割機構の動作は、参加者も興味があるようで質問が多数出ていた。

見学会の様子

【研究会】

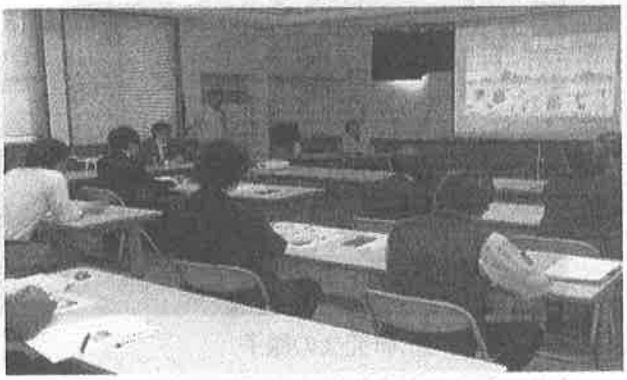
期　日　平成29年10月5日（木）

会　場　新潟工業高等学校

参加者　11名

一般社団法人ドローン普及協会理事本田昇様、代表理事川内達也様よりドローンの実機とシミュレータを持ち込んでいただき、本校北斗会館にてドローンの飛行ルールや利用の未来について講演をいただいた。講演後は、屋内練習場へ移動

し参加者全員が、実際にドローンを飛行させ、上下左右の移動や円を描くように一周させる操縦を体験した。シミュレータでは、ゲーム感覚で画面に映るドローンを夢中で操縦していた。参加者からもドローン利用の可能性や生徒への教育に利用できないかなど多くの質問があり、また童心に返ったかのような表情で操縦する様子も見受けられ大変有意義な研究会となった。



研究会の様子

（記・新潟工業高等学校　電気科　岡　圭一）

「工業化学系」研究会・見学会

【研究会】

期　日　平成29年10月6日（金）

会　場　柏崎工業高等学校

参加者　18名

平成30年度に開催する日本工化研第66回全国大会（新潟県大会）について、各校に分担された各係の進捗状況の報告があり、今後の予定について確認を行った。

北信越工業化学教育研究大会の今後の運営について、事務局・研究発表・全国理事のローテーションを確認した。

高校生ものづくりコンテスト（化学分析部門）について、北信越ブロックから長岡工業高等学校が出場との報告があった。また、平成３０年度から「キレート滴定」から「中和滴定」になる旨の報告があり、中和滴定の標準テキストの内容について意見交換を行った。

危険物取扱者試験（乙４）の合格率と指導法について、各校より報告があり、その後の意見交換のなかで、危険物取扱者丙種から試験を受けた方が合格率も上がるのではないかとの発言もあった。

研究会の様子

【見学会】

期　日　平成29年10月6日（金）

会　場　シモダ産業株式会社

参加者　20名

見学先のシモダ産業株式会社は、鋳材事業部の鋳型を製造する松波の本社と荒浜の環境事業部のクリーンセンターがある。施設見学をしたクリーンセンターは、平成19年の新潟中越沖地震で罹災され、平成29年6月より新規産業廃棄物中間処理（焼却処理）施設を設置し、運転を開始したばかりの施設である。

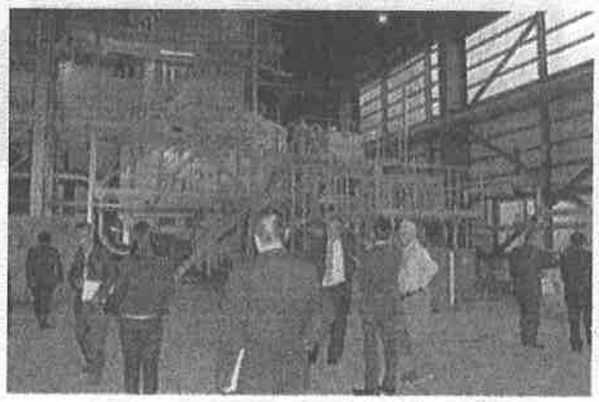
最初に会社の概要をお聞きし、焼却の工程に従って工場内を見学し、作業内容と機器について説明を受けた。特に処分が難しい医療系廃棄物（感染性産業廃棄物）の処理は、人の手を介さない設備や産業廃棄物処理後の焼却灰は、一般的には最終処分場で埋め立て処分されるものをロータリーキルン式焼成炉により1000℃以上で焼成し、無害化して焼結（人工砂）できる施設には感銘しました。

また、工場は24時間稼働しているのに数人の作業員しかいないことや、高いところで操作する際のトイレの対応が東京電力（株）の高所に設置してあるものと同じものであることに驚きを感じました。

廃棄物の再資源化により最終処分場への排出０を目指す目標のための取り組みの他に、水源の確保の池に鯉の放流や燃焼時の際の熱も利用し

て南国の果物の栽培も考えていることが興味深かった。

質疑応答では具体的な人口砂の利用方法や今後の工場拡大に向けての事業の内容などが話題になった。身近なところに最終処分場となりうる施設があることを知ることができ、貴重な体験になった。



見学会の様子

（記・新潟県立柏崎工業高等学校
工業化学科　楠　三夫）

「機械・電子機械系」研究会・講演会・見学会

期　日　平成29年12月4日（月）
会　場　新発田南高等学校（研究会）
佐渡汽船新潟港万代島ターミナル
（講演会・見学会）
参加者　25名

【研究会】

講師に有限会社星山技研の星山明紀様をお招きし、「工作機械のメンテナンスおよび安全点検について」というテーマで、講演並びに実技指導をいただいた。

有限会社星山技研では、産業用機械の据付・修理メンテナンスをはじめ各種機械の改造等を手がけている。

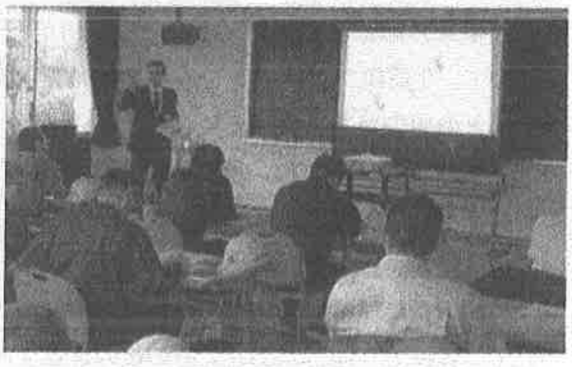
今回の研究会では、各校の実習用工作機械をはじめとする機械器具が老朽化していても予算等の関係などで更新されないという実態があるが、生徒達が安全に実習を行える環境づくりのために、私たちのスキルアップを目的に、汎用旋盤・汎用フライス盤の日常メンテナンスおよび安全点検のポイントや異常が発生した場合の対処法等について、実技指導いただきながら、実際の作業を体験させていただいた。質疑においては、各校の工作機械の不具合についての相談や対処法等をご指導いただくなど有意義な研究会となった。

研究会の様子

【講演会・見学会】

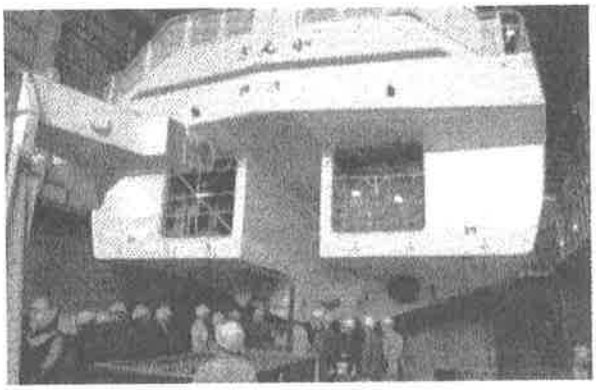
今回の講演会・見学会は、製造業をはじめ様々な産業で人材不足が深刻化しているなかで、生徒達の希望進路先は多種多様化している実態がある。そんな中で著しい人材不足に陥っている海事関連産業界から工業高校機械系出身者の活躍の場が多くあり、製造業以外進路先として先生方に紹介したいとの要望を受け実施した。

内容的には、講演会と見学会という構成で展開し、講演会では「内航船員の仕事」というテーマで国土交通省北陸信越運輸局海事部の浅田髙志様と岩本 淳様から講演いただき、参加者からは、業務内容だけ見ると過酷なイメージがあったが、休息もしっかり取れ、給与面も充実していることを知れたなど多くの感想が寄せられた。



講演会の様子

見学会では、海事関連産業施設の見学として、普段、見ることができない佐渡汽船ジェットホイル専用ドックとカーフェリー機関室を見学させていただき、海事関連産業にも機械系生徒の活躍の場があることを知ることができ、とても有意義な見学会であった。



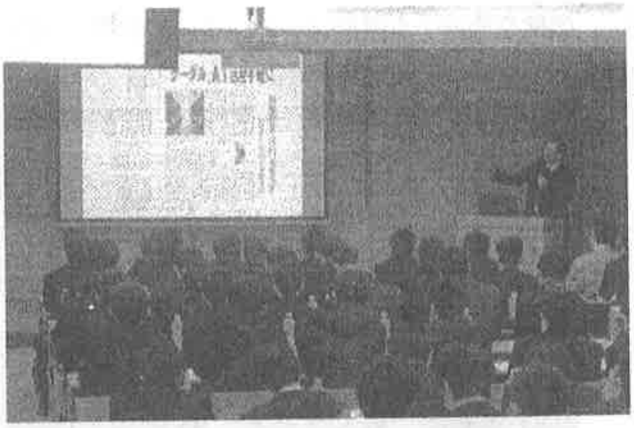
ジェットホイル専用ドック見学の様子

（記・新潟県立新発田南高等学校
機械工学科　新田　健）

平成29年度ロボット技術研究協議会及び研究発表会

期　日　平成30年1月23日(火)
会　場　新潟工科大学
参加者　157名
（生徒128名、教員29名）

例年どおり、新潟工科大学を会場として講演会、研究発表、協議会、大学設備見学を実施しました。講演会では、新潟工科大学工学部工学科教授 佐藤栄一 様から「機械学習入門」という演題で、機械学習の基礎についてご講演いただきました。講演の中では、コンピューターに特定の画像を学習させて、その後コンピューターにカメラで画像を読み取らせて、学習した画像があると認識するという実演を行いました。コンピューターが間違いなく認識する様子はとても興味深いものでした。

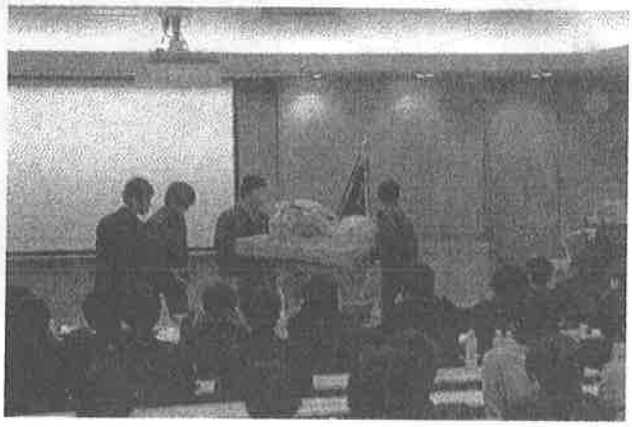


制作するにあたり、どのような機構が必要になるかを検討して製作したこと、600回を超える練習を行ったことや、全国大会直前には練習コートの床を新品にして、大会のコンディションに近づけて練習したことなど様々なことを考慮して努力されたことが説明されました。

新潟工業高校による研究発表

分科会ではロボット、マイコンカーラリー、ソーラーラジコン、ダンス、サッカーの各部門に分かれて、各校のロボットやマシンを持ちより、製作において工夫したことなどを説明し、それに対して質疑応答を行うなど、熱心な討議が行われました。ロボット部門では、高専ロボコン全国大会でベスト4に入賞とアイデア倒れ賞を受賞した長岡高専ロボティクス部を招いて、発表と実演を行っていただきました。アイデア倒れ賞を受賞したロボット「ベアLINK”」（ベアリング）を持参いただき、実演の中で実際にブーメランを射出していただきました。正確に弧を描いてブーメランが飛ぶ様子はとても感動的でした。その後の生徒

を前に集めての説明では、ブーメランを射出する機構や装填する機構について多くの質問がされ、とても関心の高い発表となりました。



長岡高専ロボティクス部による発表

最後に班に分かれ、新潟工科大学の設備見学を行い、日程を終了しました。

（記・新潟県立長岡工業高等学校
機械工学科　川口　利夫）

商業部会

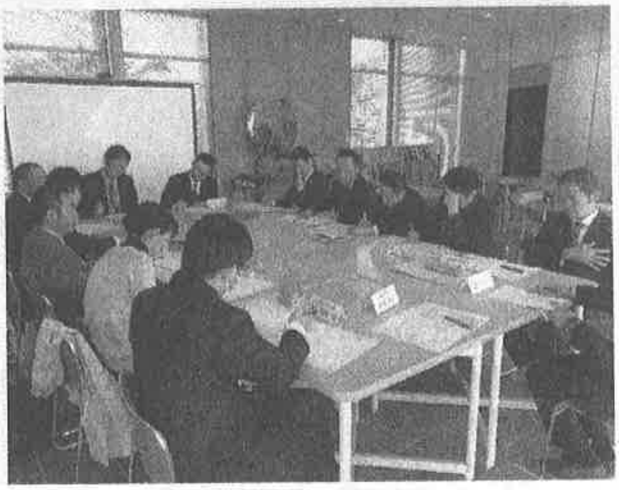
「ビジネス分野」研究会

1　期　日　平成２９年１１月１０日(金)
2　会　場　燕市産業史料館
3　参　加　9校　１４名
4　日　程
　受　　付　　９：３０～１０：００
　開　　会　１０：００～１０：１５
　研究協議　１０：１５～１１：３０
　指導講評　１１：３０～１２：００
　施設見学　１３：００～１３：３０
　講　　演　１３：４０～１５：５０
　質疑応答　１５：５０～１６：００
　閉　　会　１６：００～１６：１５

5　研究協議

（1）「ビジネス分野」科目の各校での実施状況および、学校設定科目などの独自の取り組みの状況について。

　参加校よりカリキュラムの説明と各校の問題点など報告があった。



(研究協議の様子)

（2）「ビジネス分野」科目の授業における独自の教材や取り組みなどについて。

　新潟商業「新商コラボ」、長岡商業「ＣＡＴ」、高田商業「リッカ」の取り組みについて報告をいただいた。また三条商業の地域ビジネスに関する取り組みや、五泉高校の地域発見コンテストなど外部のコンテストに挑戦している取り組みなどの報告があった。

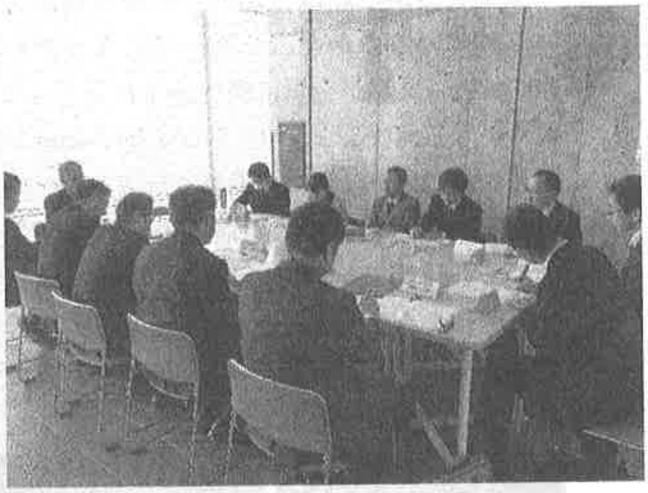
（3）その他

　平成３１年１０月に新潟で行われる予定である全国産業フェアについて、他県での視察報告があり、新潟開催に向けて課題等の意見が交換された。

6　指導講評

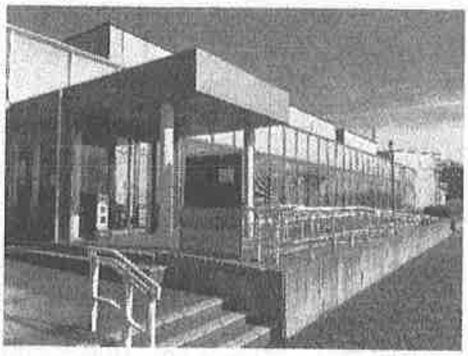
高等学校教育課指導第２係長　大島博文　副参事

　本研究協議会のあり方について指導をいただき、また新学習指導要領のパブリックコメント、他県の取り組みなどの報告をしていただいた。



7　施設見学

　燕市産業史料館は３つのブースに分かれており、本館では和釘、キセル、鎚起銅器など燕の金属産業の起源、伝統的金属工芸技術を紹介している。また別館では、燕市出身の故丸山清次郎氏が半生をかけて収集した煙管、煙草入れ、矢立のコレクションが展示されている。



（施設の外観）

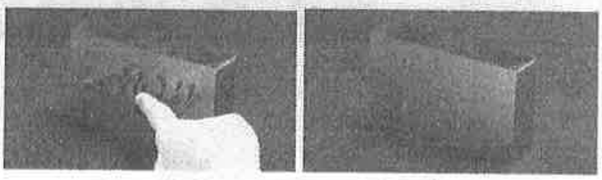
新館では、日本の金属洋食器の歴史やハウスウェアが展示されている。全館とおして燕市の伝統工芸の歴史から世界的に評価の高い洋食器に至るまでを見ることができた。

8　講　　演

演題　「燕三条から発信するグローカル」

講師　株式会社MGNET 武田　修美　様

金型製造がどれほど高度で精密な技術が用いられているのかを広く知ってもらうために作られた「文字が金属に吸い込まれ、一つの金属片になるオブジェ」（以下の写真)の動画が話題となり、メディアにも取り上げられた。現在は地元の燕と代官山にも店舗を持ち活動するなかでも、「燕三条」の地場産業である工場や製品を紹介するイベント「工場の祭典」の実行委員長も努め、その評価は日本内外でも賞賛を受け、多くの賞を受賞している。

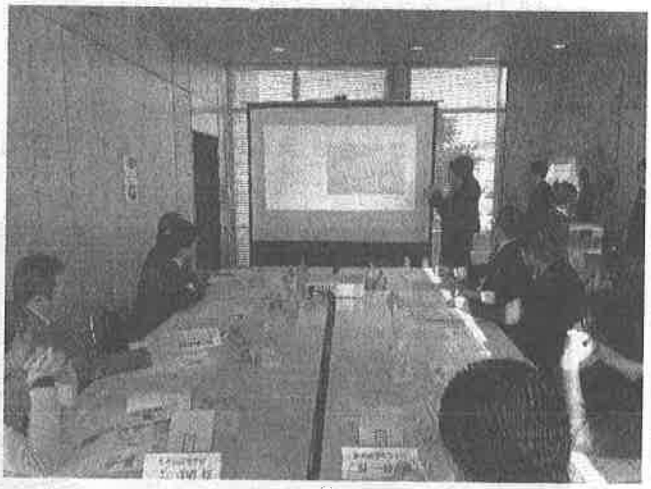


家業で製造してる「金型」が洋食器などを作る際に重要な物であることが分からず、形に見えない物に価値や意味を見いだせず、家業には就かず、高校卒業後、ビジネス系の専門学校に進み、その後は自動車メーカーのセールスマンをしていた。しかし、大病を患い、仕事を辞め迷いもあったが家族の支えもあり、家業である「金型」の仕事の手伝いを始めることになる。そして家業の仕事をとおして燕三条で生産される物品に「金型」がとても重要であることに気づき、その価値を人に知ってもらいたいと考えるようになったという。

そして「文字が金属に吸い込まれ、一つの金属片になるオブジェ」がきっかけとなりSNS等で全世界的に燕三条のものづくりの技術力の高さを示すことができた。

現在ではMGNETという会社を燕市と、東京の表参道にも設立し、「モノにエンターテイメントを」というフレーズを掲げファッションや音楽、放送、ツーリズムといった「ものづくりからまちづくり」までを仕事として次世代製造業を創造している。

MGNETの仕事をとおして、地元地域から都市部や世界に発信し、地元地域を紹介することにより、地域の活性化につながる、地域発信のグローカル（グローバル＋カルチャーの造語）を実践しているという。



（講演会の様子）

MGNETという社名にも地元地域と日本国内外をつなげる役割を示しているように思われた。

最後に伝えたいこと「技術」を伝わるように「デザイン」することが大事であるとお話いただき、私たち教員の仕事にも通じるところがあると感じた。

水 産 部 会

水産教育研究会

1　期　日

平成 29 年 12 月 1 日（金）

2　会　場

新潟県立海洋高等学校

3　指導・助言者

新潟県立加茂農林高等学校

校長　熊谷　秀則　様

4　日　程

受付	13:00~13:20
開会式	13:20~13:30
講演	13:30~15:00
全国水産研究大会報告	
これからの海洋高校について	
	15:10~15:40
閉会式	15:40~16:00

5　講　演

演題

「近年の日本海沿岸の急潮（沿岸強流）研究の発展と予測システムの構築について」

講師

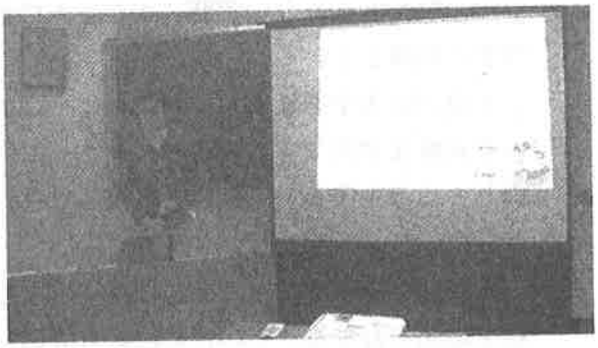
国立研究開発法人水産研究・教育機構

資源環境部

井桁　庸介　様

国立開発法人水産研究・教育機構は、全国に研究所があり、それぞれで特色のある研究を行っている。日本海区水産研究所は、日本海の研究をしている。調査機器を用いて、水温、塩分、流速などを観測している。日本海は、深い海であり、入り口は浅い。ここに、黒潮起源の対馬暖流が表層を流れている。ズワイガニの卵はこの対馬暖流に流されていくが、生息場所に戻るために、深い層の渦によって戻されることが、シミュレーションの結果からわかった。

「急潮」は、もともと太平洋側の漁師の中で使われていた言葉で、沿岸で起こる強い流れの事をいう。こういった流れが起こると、定置網が壊れることがある。富山湾の沿岸、佐渡島の周りなどに、定置網が多く設置されており、漁師は気にかけている。日本海沿岸の急潮の発生機構と予測システムについて説明があった。風による境界面の湧昇や沈降の繰り返しによって、急潮が起こる。また、対馬暖流の渦の接岸によっても、起こることがわかった。これらを国立研究開発法人水産研究・教育機構のウェブサイトで、リアルタイム急潮予報システムとして運用している。



6　全国水産研究大会報告

新潟県立海洋高等学校

金子　義昴

８月２日から４日に千葉県で行われた全国高等学校水産教育研究会の報告があった。

東京海洋大学の竹内俊郎学長から講演があた。内容は養殖の基本的なものであった。

分科会では、副題として「時代に対応した水産教育における安全教育はいかにあるべきか」についての内容で、北海道函館水産高等学校では、教職員の安全教育について発表があった。

三重県立水産高等学校は、潜水実習についての発表で、失敗体験をあらかじめ設定して、実習を行うというものであった。石川県立若狭高等学校では、潜水の実習時間を確保できないことから、座学で危険危害を予測する力を育成するという発表があった。

島根県立浜田水産高等学校では、AED を小型実習船に積んだり、大型船では、首にセンサーの様なものをぶら下げて、落水すると救急コールが鳴るシステムの紹介があった。

7　これからの海洋高校について

新潟県立海洋高等学校
校長　久保田　郁夫

将来的な、海洋高校像についての説明があった。糸魚川に専門職大学をし、本校の本科３年ではやりきれない実践にかかる本格的な学習を展開していく。

糸魚川に大学を設置し、新潟県に水産に関わる高度な学習できる場をつくり、そこに参画してくる企業から、産業を創出しなければならない。

地域にニーズがあって、地域産業になる人材を地元で育てる。そのために教育機関、つまり専門大学が必要になる。企業等や産業・職能団体、地域の関係機関との連携により、教育課程を編成・実施する体制の整備をする。

飼育、テーマパークの運営、新潟ブランド養殖産業創生、世界ジオパーク戦略、産学官連携事業の企業化・事業化、高度な学習による認証取得について取り組み、これらを観光資源として発展させる。

家庭科部会

1　全県講習会

期　日　　平成29年8月9日
会　場　　アトリウム長岡
参加者　　44名

（1）開会

①部長挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会部長
新潟県立長岡大手高等学校長
吉原　満

②主管校校長挨拶

新潟県立吉田高等学校長
灰野　正宏

③来賓挨拶

新潟県教育庁高等学校教育課指導主事
櫻井　直子　様

（2）講習

「亀田縞と和釘のオーナメント作り」
講師　和スタイル手芸店SATOWA
村上　知恵子　様

［内容］

○亀田縞

亀田縞の歴史は320年前の江戸時代に遡る。

当時の亀田郷は胸まで泥に浸かっての過酷な農作業を余儀なくされ、亀田縞は、水と泥に強い丈夫な綿織物として作られた。また、当時の亀田郷一帯は日本最北の綿花の栽培地であったため、農家の重要な副業でもあった。

明治に入ると専業の機屋が増加し、最盛期には660軒の業者が存在したが、その後、需要は低迷する。戦時指定生産の影響で綿糸の入手が困難とり、戦後の洋装化の流れもあり、亀田縞は衰退の一途をたどった。

次々と機屋が廃業していく中で、築いてきた伝統を残すべく平成14年に「亀田縞復興プロジェクト」が設立され、当時の亀田縞見本帳をもとに再現し、平成17年に復活した。

○三条和釘

三条の和釘は、1625年（寛永2年）から3年間を代官所奉行として三条に在城した大谷清兵衛が、五十嵐川の氾濫で苦しむ農民を救うために和釘作りを奨励したことが始まりと言われている。

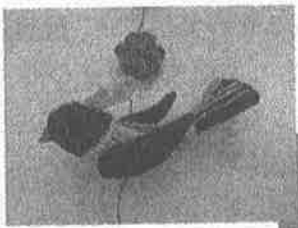
和釘は、神社・仏閣・文化財など古い建築物に使われており、平成25年の伊勢神宮式年遷宮の際には、28万本を納入した。

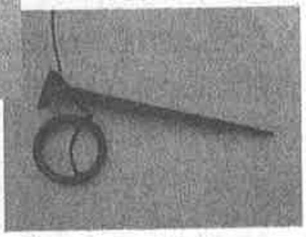
他にも栃木県の日光東照宮、福島県の鶴ヶ城、新潟県の弥彦神社にも三条の和釘が使われている。

○オーナメント作り

オーナメントは「つまみ細工」の手法を用いたもので、ボンドで貼りあわせながら製作した。ボンドを多くつけすぎないことなど、美しく仕上げるコツの説明を受けた後、グループで互いに教えあいながら、楽しく講習を受けることが出来た。作品は時間の都合で持ち帰っての完成となったが、伝統に新たな魅力が引き出され、それぞれに趣のあるものとなった。

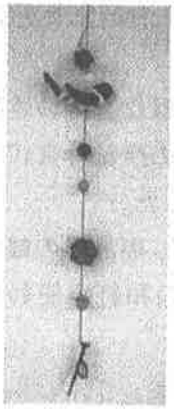
素朴で粋な亀田縞の風合いと、澄んだ和釘の音色に触れることで、伝統文化・技術への理解を深め、それらを継承・発展させることの大切さについて改めて実感する内容であった。





亀田縞のオーナメントと和釘

講習の様子



「亀田縞と和釘の
　オーナメント」完成品

（3）講習

「保育技術検定評価研究研修

（全種目１～４級）」

講師　　保育技術検定本部委員

上村　　桂　様
小川　浩子　様
今多　靖子　様
柳澤　弘美　様
永原　邦代　様

［内容］

○家庭科技術検定一元化試行に向けて

保育技術検定は平成５年の発足以来、検定の申し込み等すべて本部と実施校が直接やりとりし、１・２級についても自校審査で実施されてきた。全国高等学校家庭科教育振興会が公益財団法人に移行し、公平・公正性の確保、検定内容の質の確保の点から、数年の試行を経て、平成32年度から全都道府県で家庭科技術検定との一元化が完全実施となる。

変更事項の一つが、１・２級の審査方法である。１・２級は各種目とも自校審査から外部審査となる。審査員は２名で原則として前々年度・前年度・当該年度の評価講習会（評価研究会）に参加した者が審査資格を持つとし、各都道府県においては、１年に１回評価講習会（評価研究会）を実施しなければならない。

○講習内容

保育技術検定各種目１～４級について、それぞれ検定内容、出題の主旨、指導上の留意点等について、実演を伴いながら説明していただいた。また、審査方法については、採点表に沿って評価のポイントを具体的に解説していただいた。

配付資料

（4）閉会

①指導・講評

新潟県教育庁高等学校教育課指導主事

櫻井　直子　様

②閉会挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会副部長
新潟県立柏崎常盤高等学校長

伊藤　晶

2　家庭科部会委員会

期　日　　平成29年11月30日（木）
会　場　　新潟県立長岡大手高等学校
　　　　　済美会館
出席者　　新潟県教育庁高等学校教育課
　　　　　　指導主事　　櫻井　直子　様
新潟県高等学校教育研究会家庭科部会部長
新潟県立長岡大手高等学校長

吉原　満

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会副部長
新潟県立巻総合高等学校長

清水　源一

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会副部長
新潟県立長岡商業高等学校長

大友　康幸

各校家庭科部会代表　55名

（1）開会

①部長挨拶

新潟県立長岡大手高等学校長

吉原　満

②来賓挨拶

新潟県教育庁高等学校教育課指導主事

櫻井　直子　様

（2）報告

平成29年度事業報告・中間会計報告
平成30年度事業計画案
全国産業教育フェア秋田大会視察報告

（3）連絡

（4）実践発表

「学校外の様々な専門家との連携
～地域の方々と連携した食育の試み～」

県立柏崎常盤高等学校教諭　堀田　佳織

［内容］

小・中学校はその地域で支援していく体制がとられているが、高校は地域のまとまりから外れてしまうため連携しにくい状況であった。これを改善するため、連携の方策を探っていった。

『平成28年度柏崎地域における若い世代への食育推進事業』内容

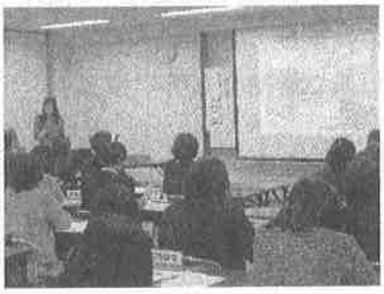
1．食育ネットワーク強化会議
2．高校での食育授業の実施
3．食育レシピの若い世代向け再編

この事業を通して、地域と連携を深めながら食育の充実を図り、柏崎ならではの美味しさと健康を生徒達に伝えていくこととした。

地域の専門家との連携を図った今回の取り組みの成果は以下の通り。

・専門家から学ぶことにより、生徒の理解がより深まり、学習指導要領総則に位置づけられている「食育の推進」を図ることができた。
・地域と関わり、衣食住の歴史や文化に関する学習を充実させることができた。
・若い世代に働きかけたいと思っている団体はいくつもあり、それらの機関と高校生を繋げることができた。
・ネットワークを作ることで、それぞれの団体が行っている個々のバラバラな事業に関連性をもたせて効果的に授業を実施することができた。

生徒の意見を元に再編された
郷土料理のレシピ集
『柏刈地域の食の歳時記』



発表の様子

（5）講習

「心地よい空間づくりから衣食住を考える」

講師　学校法人国際総合学園
新潟工科専門学校　細海　幹人　様
清水　彩子　様

［内容］

衣・食・住のつながりを見ると衣・食の行為の基本は「住」で行われる。「心地よい空間を作る」基本は収納と人の五感をうまくプランニングすることである。延べ床面積の 12%は収納

として必要である。また、収納物のうち1/3は不要なものと感じている人は多い。

インテリアは「色」「質感」「素材」のバランスが大事である。カラーコーディネートのプロセスは「部屋の使用目的」「誰が使用するか」「どんなイメージか」を明確にする。また、カラースキームは「イメージの設定」「床・壁・天井・窓周り」「家具から決めていく」方法がある。これらを基本として演習、発表を行った。

講習の様子

（6）閉会

①指導講評

新潟県教育庁高等学校教育課指導主事

櫻井　直子　様

②副部長挨拶

新潟県立巻総合高等学校長

清水　源一

3　研究成果の刊行

「家庭科研究53号」発刊

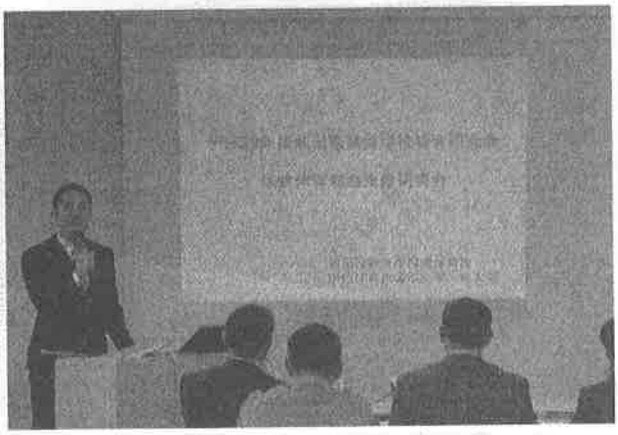
新潟県高等学校教育研究会家庭科部会、県教育委員会による研修授業、高等学校長協会家庭部会、技術検定関連実践報告等を集録。

保健体育部会

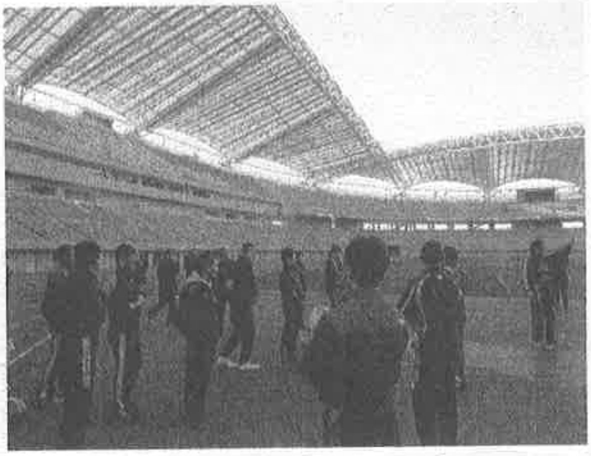
1　保健体育部会全県研究会

期　日　　平成２９年１１月２７日（月）
会　場　　デンカビッグスワンスタジアム
参加者　　３６名

【講話】
新潟県教育庁保健体育課学校体育指導係
指導主事　　間　健太郎　様
講演テーマ　「新学習指導要領について」
「新潟県の体育の現状について」



【タグラグビー実技】
内野小学校希望ヶ丘分校
教諭　小日向　文人　様
タグラグビー実技テーマ
「授業に使えるタグラグビー指導法と実習」



（ビッグスワンスタジアムにて）

2　全県養護教諭研修会

期　日　　平成２９年１０月１７日（火）
会　場　　じょいあす新潟会館
参加者　　９５名

【講演会】
日本ポジティブ教育協会　理事
鈴木　水季　様
研究会テーマ
生徒の『生き抜く力』を養うための養護教諭の役割と対応　「レジリエンス教育」

【研究発表】
新潟県立巻高等学校
養護教諭　池本　恵美　様
研究発表テーマ
「気になる」児童生徒とのかかわりに焦点を当てた研究（小・中学校部と共同研究）

3　刊行物

昨年度より、保健体育部会ＨＰに掲載

生徒指導部会

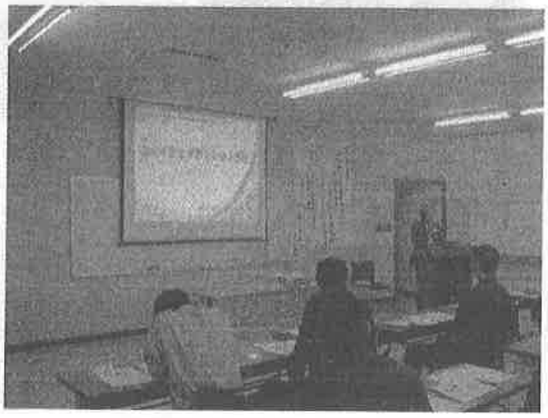
1　全県委員会

日時　第１回　６月２９日(木)
　　　第２回　９月　１日(金)
　　　第３回　１月２４日(水)

会場　県立巻高等学校　会議室

2　全県研究協議会

日時　１１月１０日(金)
会場　巻地区公民館
内容　講演会及び研究協議会
＜午前＞講演会
演題　「高等学校における自殺予防教育の方向性と課題」
講師　関西外国語大学教授　新井　肇　様

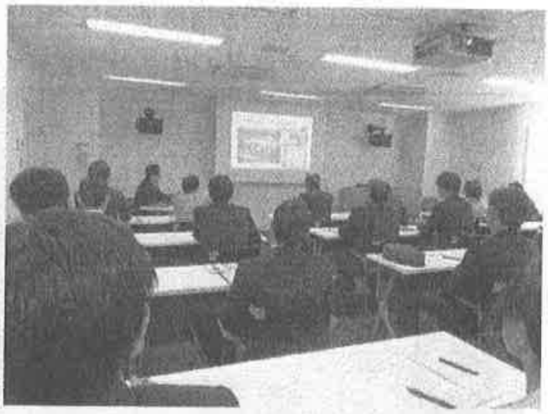


＜午後＞研究協議会
第一分科会「交通事故防止」について
第二分科会「特別支援」について
第三分科会「いじめ・自殺予防」について
発表及び講評
講評者　県教育センター教育支援班
　　　　　　指導主事　中村　悟利　様

3　地区研究会

日時　１０月２６日(木)
会場　新潟少年学院
内容　講演及び施設見学
演題「少年院の現状」
講師　新潟少年学院次長　岩田俊一　様

施設見学と質疑応答



4　刊行物

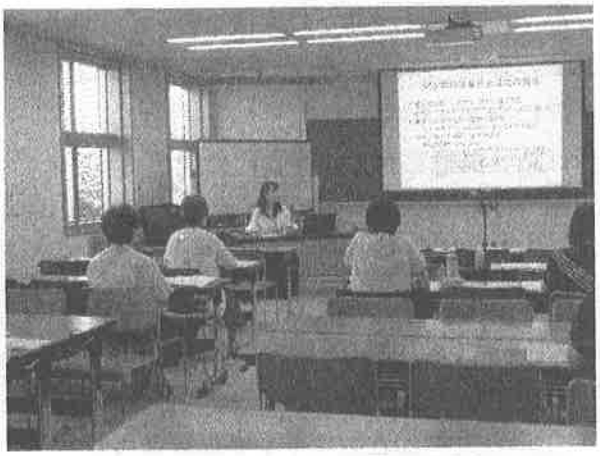
生徒指導部会誌　第５０号
内容　研究内容・資料・部会活動報告
冊数　４００冊

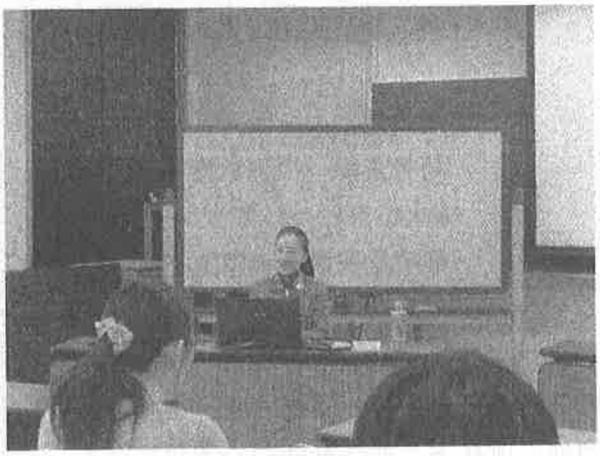
図書館部会

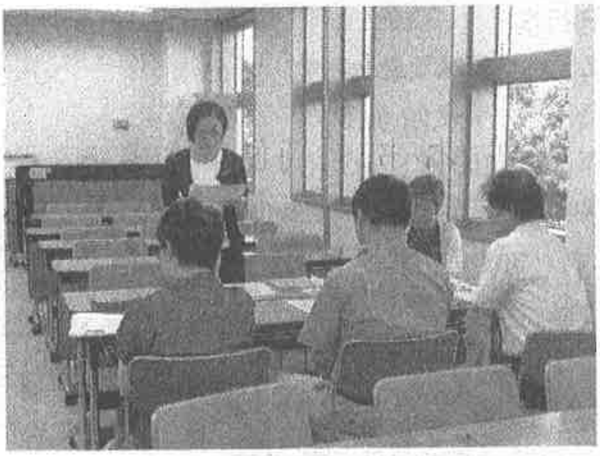
1　総会・講演会

ｉ）総会・講演会
期日　平成29年8月10日（木）
会場　県立生涯学習推進センター
参加者　14名
内容
【講演】
「学校図書館を活用した学習の必要性とその実現のための学校図書館コレクション」
図書館コミュニケーションデザイナー
中村　百合子　様

ⅱ）講演会
期日　平成29年12月14日（木）
会場　県立生涯学習推進センター
参加者　14名
内容
【講演】
「大学図書館における電子資料、高校図書館での電子資料の活用や導入について」
【協議】
「高校図書館における課題と司書としてのチャレンジ（解決策案）について」
小島　勢子様







それぞれの講演については、『図書館部報』をご覧ください。

2　刊行物

『　図書館部報　』第６２号

視聴覚部会

1　視聴覚部会総会

会　場　長岡市　市民センター

期　日　9月12日（火）13:00～

参加者　10名

議　題　(1)平成28年度事業総括

(2)平成28年度決算報告

(3)平成29年度事業計画

(4)平成29年度予算案

(5)平成29年度役員

・部　長　糸魚川白嶺高等学校　校長　須藤　良平

・副部長　白根高等学校　校長　富樫　信浩

十日町総合高等学校　教頭　阿部　正一

・幹　事　長岡工業高等学校　平倉　政弘

(6)その他

・研究集録「視聴覚教育研究」編集担当について

・研究図書購入希望調査について

2　指導者研修の実施

当視聴覚部会を構成する部会員は、高文連放送専門部に所属する部活動顧問を兼ねている場合も多い。そこで、部会独自の講習会の他に放送専門部の講習に顧問として参加する際に研修を実施している。

(1)放送技術初心者講習

校内で視聴覚、放送活動を指導する際に最低限必要なアナウンスや機器運用技術の知識や指導方法を研修。

・新潟下越地区　4月30日（日）実施
　万代市民会館にて　参加者9人

・上中越地区　5月3日（水）実施
　まちなかｷｬﾝﾊﾟｽ長岡にて　参加者5人

(2)放送技術者夏期講習会

放送技術の実践的指導方法とコンテスト対策について研修。

8月16日（水）～8月17日（木）実施

新発田市ますがた荘にて　参加者13人

(3)研究協議会（総会後研修会を実施）

9月12日（火）13:30～

ＮＨＫ杯全国高校放送ｺﾝﾃｽﾄ審査体験

ＮＨＫ杯創作ﾃﾚﾋﾞﾄﾞﾗﾏ部門優勝報告

全国総文祭ＶＭ部門入賞報告

ｺﾝﾃｽﾄにおける読み指導について

著作権処理とCUEシートについて

参加者10人

3　コンテストの主催及び共催

本部会では、放送コンテスト県内大会の主催および高文連放送専門部との共催を行い、こうした大会の審査・運営を通して指導技術の向上を図っています。また、日程・大会結果は、本部会刊行誌「視聴覚教育研究」に掲載します。

(1)NHK杯全国高等学校放送コンテスト新潟県大会（主催）
　6月14日（水）　参加者18人

(2)ＱＫ杯新潟県校内放送コンクール（共催）
　11月14日（火）　参加者18人

※以上参加者数は事業参加教職員数

4　刊行物

名　称　視聴覚教育研究　第55号

発行日　平成29年度末

部　数　100冊

内　容　・部長挨拶・H29事業報告

・ＮＨＫ杯全国大会優勝報告

・全国総文祭優秀賞受賞報告

・夏期講習会を実施して

・本年度コンテスト結果

・総会報告・部会規約・編集後記

定通部会

Ⅰ　定時制・通信制教育総合研究会

期　日　平成29年8月1日（火）
会　場　ＮＳＧ学生総合プラザＳＴＥＰ
当番校　長岡英智高等学校
参加者　162名
主　題　「未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進」

1　研究発表

（1）学習指導・進路指導
「漢字と原稿の課題から考える基礎学力の向上と評価」
十日町高等学校定時制課程　教諭　丸山　篤志

（2）生徒指導
「本校の生徒指導の現状と課題～特別な支援を必要とする生徒への具体的取組～」
佐渡高等学校川分校　教諭　池　義治

（3）特別支援教育
「学びのユニバーサルデザイン
～支援を必要とする生徒たちの学び直し～」
長岡英智高等学校　教諭　今井　基也

【指導助言】
高等学校教育課指導主事　立川　純

2　講　演
「非行の心理～どう理解し、どう関わるか～」
新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科　准教授
佐藤　亨

講師　佐藤　亨　様

Ⅱ　役員会総会・理事会

<第1回>
期　日　平成29年5月29日（月）
会　場　新潟翠江高等学校
議　事　平成29年度役員の委嘱について
報　告　平成28年度事業報告
平成28年度決算報告
協　議　平成29年度事業計画について
平成29年度予算について
平成29年度定通総研について

<第2回>
期　日　平成30年2月13日（火）
会　場　明鏡高等学校
報　告　平成29年度事業報告
平成29年度決算中間報告
協　議　平成30年度事業計画について
平成30年度定通総研について

Ⅲ　各校情報交換会

期　日　平成29年11月7日（火）
会　場　新潟市立明鏡高等学校
参加者　51名
内　容　(1) 授業見学・校舎見学
(2) 情報交換（分科会）
①定時制教務
②通信制教務
③生徒指導
④特別支援
⑤進路指導

進路指導部会の様子

Ⅳ　県外視察

期　日　平成29年11月9日（木）、10日（金）
視察校　栃木県率学悠館高等学校
埼玉県立大宮中央高等学校
埼玉県立羽生高等学校
参加者　2名

Ⅴ　刊行物

実践集録 55号（平成30年2月中旬発行）

高教研　国語部会　　平成２９年度事業報告書

部長　中戸　義文

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期日	６月２２日（木）	１０月３０日（月）	２月１日（木）
	場所	じょいあす新潟会館	あいぽーと佐渡	じょいあす新潟会館
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	年度計画の検討 全県研究協議会の実施計画	「思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善について」 「明治の漢文教師と来島の文学者」	年度活動の反省 次年度活動計画
	講師職氏名		佐渡市文化財保護審議会会長 山本修巳　氏	
	研究発表 テーマ・職・氏名		①　型を意識した文章の指導～安部公房『日常性の壁』を題材にして～ 新潟東高校教諭 柳澤　路子 ②　知識の活用モデルに注目した授業改善～評論文『治具』（塚本由晴）を題材にして～ 新発田商業高校教諭 吉田　正実 指導主事講評 県立教育センター 中村　敬行指導主事	
	参加者数	９名	２８名	１４名
研修分野の分類		②	①②③⑦	②
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数	特になし		
研究成果刊行物出版	名称	『国語研究』第６４集		
	主な内容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊数	２００冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　国語部会　平成３０年度事業計画（案）

部長　中戸　義文

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期日	６月２１日（木）	１０月下旬	３１年１月
	場所	じょいあす新潟会館	新潟地区	じょいあす新潟会館
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	年度計画の検討 全県研究協議会の実施計画	「思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善について」 講演テーマ未定	年度活動の反省 次年度活動計画
	講師職 氏名		講師未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名		発表者未定（２名） 指導主事講評 県立教育センター 指導主事	
	参加者数	１５名	約８０名	１５名
研究分野の分類		②	①②③④⑤⑥	①
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数	特になし		
研究成果刊行物出版	名称	『国語研究』６５集		
	主な内容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊数	２００冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　地理歴史・公民部会　平成２９年度事業報告書

部長　岩田　宏樹

	目的	地理歴史・公民教育の諸問題に関する研究		
研究会・講習会等の開催	期日	6月30日（金）	8月9日（水）・10日（木）	10月12日（木）
	場所	万代市民会館	十日町高等学校他	新潟江南高等学校
	研究会名称	総会・研究協議会	地理研究会	公民研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「歴史学・歴史教育の『分断』を越えて－静岡地域の高大連携・教員養成と日本史・世界史の統合－」	「十日町市のふるさとづくり・まちづくり～十日町市本町・松代地域の取組から学ぶ～」	「主体的・対話的で深い学びを目指した公民科の授業」
	講師職氏名	静岡大学教授 岩井　淳　様	十日町市役所 渡辺　正範　様	新潟大学教授 田中　一裕　様
	研究発表 テーマ・職・氏名	○実践報告 「採用１年目の取り組み」 （報告者） 小千谷高等学校教諭 酒井　未来 高田北城高等学校教諭 横山　翔 ○基調講演	○講演（９日） 「大地の芸術祭　豪雪ブランディング」 ○ミニ巡検（９日） ○巡検（10日）	○実践報告 「他者を通じて自己の確立を目指す取り組み～倫理の授業より～」 （報告者） 十日町高等学校教諭 風間　春菜 ○講演・模擬講義
	参加者数	32名	12名	27名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①②③	①⑤	①②③④
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数			
研究成果刊行物出版	名称	『地理歴史・公民研究』　第５６集		
	主な内容	研究会報告、研究論文・実践報告、私の教材紹介、センター試験問題講評、地歴、公民の広場など		
	冊数	３３０冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研　地歴・公民　部会　平成２９年度事業計画

部長　　岩田　宏樹

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民教育の諸問題に関する研究		
	期日	７月６日（金）	未定	未定
	場所	新潟市万代市民会館	柏崎市内	上越市内
	研究会名称	総会・研究協議会	地理研究会	歴史研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	新科目「公共」について	未定	未定
	講師職氏名	法政大学教授 児美川　孝一郎　様	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	○実践報告 ○講演	○講演 ○巡検 柏崎市内を巡検	○実践報告
	参加者数	未定	未定	未定
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①②③④	①②⑤	①②④⑥
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数			
研究成果刊行物出版	名称	『地理歴史・公民研究』　第５７集		
	主な内容	研究会報告、研究論文・実践報告、私の教材紹介、センター試験問題講評、地歴、公民の広場など		
	冊数	３３０冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 数学部会 平成２９年度事業報告書

部長　　上杉　[illegible]

研究会・講習会等の開催	目的	学力の向上を目指した数学教育の研究			
	期日	６月３０日（金）	１０月２日（月）	１１月１７日（金）	１２月１日（金）
	場所	下越地区 （じょいあす新潟会館）	中越地区 （長岡市地域交流センター）	新潟地区 （新潟中央高等学校）	上越地区 （柏崎市立図書館）
	研究会名称	数学教育研究会	全県研究協議会	中高連絡協議会	地区研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	高等学校における数学教育の諸問題について 「多項式に関する話題」	高等学校における数学教育の諸問題について 「指数の歴史」	教科における中高の指導方法について 「授業改善の視点について」	高等学校における数学教育の諸問題について 「数学授業における「主体的・対話的で深い学び」～習得・活用・探求を通して～」
	講師職氏名	新潟大学理学部 数学科教授 小島　秀雄　氏	東京理科大学大学院科学教育研究科長教授 伊藤　稔　氏	県教育庁高等学校教育課指導企画振興係指導主事 宮澤　雅樹　氏	東京大学大学院 教育学研究科教授 市川　伸一　氏
	研究発表 テーマ・職・氏名	「新潟大学入試問題の分析について」 県立国際情報高等学校 教諭・渡辺　篤	「生徒が互いに協力し主体的に参加する授業での取り組み」 県立新潟高等学校 教諭・小口　洋平	「公開授業」 県立新潟中央高等学校 教諭・清水　健司 教諭・中條　彩	「能動的に学ぶ生徒の育成～生徒同士の関わり合いを意識した授業の取り組み」 県立新井高等学校 教諭・土田　温子
	参加者数	７５名	８１名	６３名	６４名
研修分野の分類		①，③	①，③	④，⑥	②，③
調査	主要テーマ	数学力向上のための意欲を引き出す授業展開			
	調査の期日 場所・参加者数	県内各高等学校			
図書購入	図書名 冊数	なし			
研究成果刊行物出版	名称	『数学教育研究集録』第 56 号			
	主な内容	会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容			
	冊数	３５０冊			

高教研 数学部会 平成３０年度事業計画（案）

部長　上杉　肇

<table>
<tr><td rowspan="9">研究会・講習会等の開催</td><td>目的</td><td colspan="4">学力の向上を目指した数学教育の研究</td></tr>
<tr><td>期日</td><td>６月（予定）</td><td>１０月（予定）</td><td>１１月（予定）</td><td>１２月（予定）</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>中越地区
(未定)</td><td>上越地区
(未定)</td><td>新潟地区
(未定)</td><td>下越地区
(未定)</td></tr>
<tr><td>研究会名称</td><td>数学教育研究会</td><td>全県研究協議会</td><td>中高連絡協議会</td><td>地区研究協議会</td></tr>
<tr><td>研究会テーマ
・
「講演テーマ」</td><td>高等学校における数学教育の諸問題について
未定</td><td>高等学校における数学教育の諸問題について
未定</td><td>教科における中高の指導方法について
未定</td><td>高等学校における数学教育の諸問題について
未定</td></tr>
<tr><td>講師職氏名</td><td>未定</td><td>未定</td><td>未定</td><td>未定</td></tr>
<tr><td>研究発表
テーマ・職・氏名</td><td>「新潟大学入試問題の分析について」
未定</td><td>未定</td><td>未定</td><td>未定</td></tr>
<tr><td>参加者数</td><td>８０名(予定)</td><td>８０名(予定)</td><td>７０名(予定)</td><td>８０名(予定)</td></tr>
<tr><td colspan="2">研究分野の分類
下記の①～⑦から選択。複数選択可。
主となるテーマを先頭に</td><td>①、③</td><td>①、③</td><td>①、③、⑥</td><td>①、③</td></tr>
<tr><td rowspan="2">研究調査</td><td>主要テーマ</td><td colspan="4">数学力向上のための意欲を引き出す授業展開</td></tr>
<tr><td>調査の期日
場所・参加者数</td><td colspan="4">県内各高等学校</td></tr>
<tr><td>図書購入</td><td>図書名
冊数</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">研究成果・刊行物の出版</td><td>名称</td><td colspan="4">『数学教育研究集録』第57号</td></tr>
<tr><td>主な内容</td><td colspan="4">会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容</td></tr>
<tr><td>冊数</td><td colspan="4">３５０冊</td></tr>
</table>

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・演習・展示

高教研　理科部会　　　平成２９年度事業報告書

部長　　加藤　徹男

	目的	理科教育の研究・発展に資する			
研究会・講習会等の開催	期日	７月５日（水）	１１月９日（木）	１１月２１日（火）	１２月５日（火）
	場所	上越教育大学	フォッサマグマミュージアム	柏崎高校	三条東高校
	研究会名称	理科部会 第１回役員会	理科部会 地学教育研究会	理科部会 化学教育研究会	理科部会 生物教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「理科教育・教育実践について～上越教育大学の取り組み～」	「フォッサマグマ地域の地質」	「子ども達の一生涯を幸せにする高校教師になるために『主体的、対話的で深い学び』とは何か？」	「高校生物～遺伝子の発現調節～」
	講師職氏名	上越教育大学 五百川　裕　氏	フォッサマグマミュージアム 小河原孝彦　氏	上越教育大学 教職大学院 西川　純　氏	新潟大学 酒井　達也　氏
	研究発表 テーマ・職・氏名	H28事業報告・決算報告 H29事業計画・予算案	巡検	「マイクロスケールによる反応速度の実験」（五泉高等学校　中村友里） 「柏崎高校のSSHについて」（柏崎高校　佐藤喜広）	「５年目のＳＳＨについて」（長岡高校　木山和幸）「主体的対話的で深い学びに向けて」（県立教育センター　帆苅　信）「簡易血糖測定器を活用した恒常性の単元で行う演示実験」（新潟明訓高校　間島啓太）
	参加者数	１９名	９名	２４名	２５名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		⑦	①	①	①
調究	主要テーマ	新カリキュラムの研究・対応した活用集の改定作業			

	調査の期日 場所・参加者数	
図書購入	図書名 冊数	
研究成果刊行物出版	名称	「理科研究集録」第５７号
	主な内容	講演、研究成果の発表
	冊数	３５０冊

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　理科部会　　　平成２９年度事業報告書

部長　　加藤　徹男

<table>
<tr><td rowspan="8">研究会・講習会等の開催</td><td>目的</td><td colspan="4">理科教育の研究・発展に資する</td></tr>
<tr><td>期日</td><td>１２月１５日
（金）</td><td>２月７日
（水）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>場所</td><td>新潟中央高校</td><td>新潟工科大学</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>研究会名称</td><td>理科部会
物理教育研究会</td><td>理科部会
第２回役員会</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>研究会テーマ
「講演テーマ」</td><td>「物理教員養成の問題点と中学・高校の物理教育」</td><td>「教育現場におけるIoTの活用事例」</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>講師職氏名</td><td>福井県教育総合研究所　先端教育研究センター
川角　博　氏</td><td>新潟工科大学
佐藤　栄一　氏</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>研究発表
テーマ・職・氏名</td><td>「結果から推論させる教材の一例」（新潟県央工業高校　山本岳）「復習として、または講習における実験の導入」（新潟高校　小熊好弘）「新潟中央高校における物理の授業実践」（新潟中央高校　本田　崇）</td><td>H29事業報告・決算報告
H30事業計画・予算案

施設見学</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>参加者数</td><td>２６名</td><td>２０名</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">研修分野の分類
下記①～⑦から選択。複数選択可。
主となるテーマを先頭に</td><td>①</td><td>⑦</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">研究調査</td><td>主要テーマ</td><td colspan="4">新カリキュラムの研究・対応した活用集の改定作業</td></tr>
<tr><td>調査の期日
場所・参加者数</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

図書購入	図書名 冊数	
研究成果刊行物出版	名称	「理科研究集録」第５７号
	主な内容	講演、研究成果の発表
	冊数	３５０冊

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　理科　部会　平成３０年度事業計画（案）

部長　　加藤　徹男

<table>
<tr><td rowspan="16">研究会・講習会等の開催</td><td>目的</td><td colspan="4">理科教育の研究・発展に資する</td></tr>
<tr><td>期日</td><td>6，7月
（　）</td><td>12月
（　）</td><td>11月
（　）</td><td>11月
（　）</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>未定</td><td>未定</td><td>未定</td><td>未定</td></tr>
<tr><td>研究会名称</td><td>第１回役員会</td><td>物理研究会</td><td>化学研究会</td><td>生物研究会</td></tr>
<tr><td>研究会テーマ
「講演テーマ」</td><td>平成30年度活動計画・予算案
「　」</td><td>未定
「　」</td><td>未定
「　」</td><td>未定
「　」</td></tr>
<tr><td>講師職氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>研究発表
テーマ・職・氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>参加者数</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>期日</td><td>11月
（　）</td><td>1，2月
（　）</td><td>（　）</td><td>（　）</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>未定</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>研究会名称</td><td>地学研究会</td><td>第２回役員会</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>研究会テーマ
「講演テーマ」</td><td>未定
「　」</td><td>平成31年度活動計画
「　」</td><td>「　」</td><td>「　」</td></tr>
<tr><td>講師職氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>研究発表
テーマ・職・氏名</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>参加者数</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">研究調査</td><td>主要テーマ</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>調査の期日場所・参加者数</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>図書</td><td>図書名・冊数</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>刊行成果</td><td>名称・内容・冊数</td><td colspan="4">理科研究集録　第５８号　３５０冊</td></tr>
</table>

高教研　芸術部会　平成29年度事業報告書

部長　大田　英則

区分	項目	全体	音楽	美術・工芸	美術・工芸	書道
研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	全体	音楽	美術・工芸		書道
	期日	6月23日(金)	10月23日（月）	8月10日(木)	8月18日(金)	8月18日(金)
	場所	県立新発田南高等学校 県立新発田農業高等学校	県立新潟中央高等学校	ギャラリーみつけ	長岡造形大学	県立新潟商業高等学校
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科研修会	美術科研修会	第31回 新潟県美術教育 研究大会 中越大会	書道科研修会
	研究会テーマ 「講演会テーマ」	総会 公開授業 研究協議会 分科会	ロシアンメソッド ピアノレッスン見学 音楽棟施設説明 音楽科授業見学	実技研修会 「純銀粘土と他種素材の組み合わせによるアクセサリーの制作」	HIRAKU 「かかわり　つながり　みつめる」	講演会　及び 作品鑑賞 演題 「仮名の成り立ちについて　―良寛の仮名を中心に―」
	講師職氏名	講演会なし		結城　孝子　氏	聖徳大学 児童学部長教授 奥村　高明　氏	古美術店 萬羽軒店主 萬羽　啓吾　氏
	研究発表 テーマ・ 職・氏名	公開授業 【音楽】 県立新発田南高等学校 教諭　保科　誠一郎 【美術・工芸】 県立新発田南高等学校 講師　渡辺　陽介 【書道】 県立新発田南高等学校 教諭　芳賀　祐子	研究協議 器楽指導の授業の取り組みと課題 研究発表 県立長岡明徳高等学校 教諭　星野　睦		公開授業 県立小千谷西高等学校 教諭　田中　幸男 ワークショップ参加 県立長岡商業高校	
	参加者数	３２名	１１名	１１名	7名	２４名
研修分野の分類 下記①~⑦から選択、複数選択可、主となるテーマを先頭に		⑥	①、②、⑥	⑦	⑥	①

区分	項目	内容
研究調査	主要テーマ	県外芸術教育先進校視察にむけて
	調査の期日 場所・参加者数	未定
図書購入	図書名 冊数	未定
研究成果刊行物出版	名称	※刊行物の発行はせず、報告をメール配信（HP移行期は印刷冊子を配布）
	主な内容	
	冊数	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　芸術部会　平成30年度事業計画（案）

部長　大田　英則

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる			
	教科	全体	音楽（全体）	美術	書道
	期日	６月下旬	１０月	８月	８月
	場所	中越高校	県立新潟中央高等学校	中越地区	中越地区
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	芸術部会研修会 音楽科研修会	美術科研修会	書道科研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	総会・公開授業 研究協議会 分科会	公開授業 レッスン見学 演奏会	未定	未定
				美術書道合同「ものづくり研修会」	
	講師職氏名		未定	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	公開授業 【音楽】 名古屋　愉加 【美術】 北村　和則 【書道】 伊藤　優一	未定	未定	未定
	参加者数	８０名	８０名	１６名	２５名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		③、⑥	①、⑤、⑥	③、⑦	⑦
研究調査	主要テーマ	県外芸術教育先進校視察			
	調査の期日 場所・参加者数	未定			
図書購入	図書名 冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	報告集をまとめ、総会時に配付またはメール配信			
	主な内容				
	冊数				

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　英語部会　平成２９年度事業報告書　その１

部長　萩野　俊哉

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	６月23日（金）	８月21日（月）	10月７日（土）	10月14日（土）
	場所	県立新発田高等学校	県立長岡大手高等学校	・柏崎エネルギーホール ・県立生涯学習推進センター	新潟国際情報大学
	研究会名称	臨時研修会	夏季研修会	高校生スピーチコンテスト（予選）	第５回新潟県高校生英語ディベート大会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	英語教育の推進と向上 （指導・助言）	英語教育の推進と向上 （講演なし）	なし	なし
	講師職氏名	名古屋外国語大学教授 太田光春先生	なし	なし	なし
	研究発表 テーマ・職・氏名	授業公開：県立新発田高校 根立望先生	研究発表：県内英語科教諭９名 授業研究：県立新発田高校 根立望先生	なし	なし
	参加者数	８０	１０９	７６（生徒）	８０（生徒）
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		②④⑥⑦	②③⑦	なし	なし
研究調査	主要テーマ	授業改善・授業公開・評価			
	調査の期日 場所・参加者数	平成30年2月24日、まちなかキャンパス長岡、30名			
図書購入	図書名 冊数	なし			
研究成果刊行物出版	名称	「英語部会誌」６２号			
	主な内容	夏季研修会報告、全英連新潟大会報告、寄稿等			
	冊数	３５０部			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　英語部会　平成２９年度事業報告書　その２

部長　萩野　俊哉

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	11月５日（日）	11月22日（水） 23日（木）		
	場所	県立生涯学習推進センター	りゅーとぴあ、朱鷺メッセ		
	研究会名称	高校生スピーチコンテスト（本選）	全英連新潟大会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	なし	英語教育の新潟から未来へ！～交流・喜び・成長あふれる英語教育の推進～「コミュニケーション能力の育成をめざして～自律した学習者を育てる～」		
	講師職氏名	なし	太田光春先生 （名古屋外国語大学教授）		
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし	授業実演・研究発表 県内英語科教諭		
	参加者数	２０（生徒）	１，２１５		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		なし	②④⑥⑦		
研究調査	主要テーマ	授業改善・授業公開・評価			
	調査の期日 場所・参加者数	平成30年2月24日、まちなかキャンパス長岡、30名			
図書購入	図書名 冊数	なし			
研究成果刊行物出版	名称	「英語部会誌」６２号			
	主な内容	夏季研修会報告、全英連新潟大会報告、寄稿等			
	冊数	３５０部			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　英語部会　平成３０年度事業計画（案）その１

部長　萩野　俊哉

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	８月	10月	10月	11月
	場所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	夏季研修会	高校生スピーチコンテスト（予選）	第６回新潟県高校生英語ディベート大会	高校生スピーチコンテスト（本選）
	研究会テーマ 「講演テーマ」	英語教育の推進と向上	なし	なし	なし
	講師職氏名	未定	なし	なし	なし
	研究発表 テーマ・職・氏名	研究発表：県内英語科教諭	なし	なし	なし
	参加者数	１００	７０（生徒）	８０（生徒）	２０（生徒）
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①～⑦	なし	なし	なし
研究調査	主要テーマ	授業改善・授業公開・評価			
	調査の期日 場所・参加者数	未定			
図書購入	図書名 冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	「英語部会誌」６３号			
	主な内容	研修会報告、プロジェクト報告、寄稿等			
	冊数	３５０部			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　英語部会　平成３０年度事業計画（案）その２

部長　萩野　俊哉

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	未定（複数回）	未定		
	場所	未定	未定		
	研究会名称	プロジェクト活動（研究講演会・ワークショップ等）	全県研究大会		
	研究会テーマ「講演テーマ」	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上		
	講師職氏名	未定	未定		
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	研究発表：県内英語科教諭など		
	参加者数	１００	１００		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①～⑦	①～⑦		
研究調査	主要テーマ	授業改善・授業公開・評価			
	調査の期日 場所・参加者数	未定			
図書購入	図書名 冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	「英語部会誌」６３号			
	主な内容	研修会報告、プロジェクト報告、寄稿等			
	冊数	３５０部			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

平成２９年度　新潟県高等学校教育研究会　農業部会事業報告書

部長　熊谷　秀則

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展		
	期日	平成２９年 ８月２１日(月)	平成２９年 １１月１３日（月）	平成２９年 １２月８日（金）
	場所	じょいあす新潟会館	加茂農林高等学校	海洋高等学校
	研究会名称	農業教育研究大会 （新発田農業高等学校）	農業教育課題研究会 （加茂農林高等学校）	農業教育課題研究会 （高田農業高等学校）
	研究会テーマ 「講演テーマ」	地域との共生を目指した農業教育を推進しよう 「GLOBAL GAPの認証取得について」	「フラワーアレンジメントについて」	食品の安全衛生管理の実際 「HACCPによる食品衛生管理について」
	講師職氏名	新潟県農業大学校 稲作経営課長 長谷川　雅義様	NFD講師 猪俣　悦子様	糸魚川保健所 渡邉　修様
	研究発表 テーマ・職・氏名	第１分科会：「地域や社会の健全な発展を担う人材育成について」 第２分科会：「地域貢献・連携を進める地域資源を生かした教育活動について」 第３分科会：「新大会基準に基づいた農業クラブ指導方法について」	フラワーアレンジメントの実践及び産業教育フェアの概要と大会規則・基準の変遷	「食品安全管理システムHACCPについて」 海洋高等学校教諭 松本　将史様
	参加者数	４８名	７名	１１名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		③②①	⑦②	②③⑤
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購入図書	図書名 冊数			
研究成果刊行物出版	名称	『新潟県農業教育研究会誌』第５２号（高田農業高等学校）		
	主な内容	研究論文・報告文・トピックス・その他		
	冊数	１７０冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習･講習･展示

平成３０年度　新潟県高等学校教育研究会　農業部会事業計画書（案）

部長　熊谷　秀則

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展		
	期日	平成３０年 ８月２１日(火)	未定	未定
	場所	じょいあす新潟会館	未定	未定
	研究会名称	農業教育研究大会（加茂農林高等学校）	農業教育課題研究会 （高田農業高等学校）	農業教育課題研究会 （新発田農業高等学校）
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定	未定
	講師職氏名	未定	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	第１分科会：未定 第２分科会：未定 第３分科会：未定	未定	未定
	参加者数	（　　）名	（　　）名	（　　）名
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数			
研究成果刊行物出版	名称	『新潟県農業教育研究会誌』第５３号 （高田農業高等学校）		
	主な内容	研究論文・報告文・トピックス・その他		
	冊数	１７０冊		

高教研　工業　部会　平成29年度事業報告書

（見学会・講習会の部）　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月3日（火）	10月4日（水）	10月5日（木）	10月6日（金）
	場所	新発田南高校	新発田市役所本庁舎、阿賀野バイパス新潟安田線IC橋下部工事現場	新潟工業短期大学	シモダ産業(株)
	研究会名称	建築・土木 講演会	建築・土木 見学会	電気・電子 見学会	工業化学 見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「地域住民との協働を活用する工学教育」	新発田市役所本庁舎、阿賀野バイパス新潟安田線IC橋下部工事現場見学会	新潟工業短期大学見学会	シモダ産業(株)見学会
	講師職氏名	新潟大学 工学部教授 西村伸也氏	(株)笹川組 常務取締役 笹川清氏	新潟工業短期大学教授 脇田喜之氏	シモダ産業（株） 代表取締役 霜田彰氏
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	25 名	22 名	14 名	20 名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①	①　⑤	①　⑤	①　⑤
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要　第54号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成29年度研究集録			
	冊数	220冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　工業　　部会　平成29年度事業報告書

（見学会・講習会の部）　　　　　　　　　　　　　　　　　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	12月4日（月）	1月23日（火）	（　）	（　）
	場所	佐渡汽船万代島ターミナル	新潟工科大学		
	研究会名称	機械・電子機械見学会・講演会	ロボット技術研究協議会		
	研究会テーマ「講演テーマ」	佐渡汽船万代島ターミナル見学会「内航船員の仕事」	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名	国土交通省北陸信越運輸局浅田高志氏、岩本淳氏			
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数	27名	157名		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①　⑤	①　③　⑦		
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要　第54号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成29年度研究集録			
	冊数	220冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業　部会　平成29年度事業報告書

（研究会の部）　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月3日（火）	10月3日（火）	10月5日（木）	10月6日（金）
	場所	新発田南高校	新発田南高校	新潟工業高校	柏崎工業高校
	研究会名称	建築系学科研究会	土木系学科研究会	電気・電子研究会	工業化学研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	建築系学科研究協議	土木系学科研究協議	「ドローン空撮研究会」	工業化学研究会
	講師職氏名			(一社)ドローン普及協会理事 本田昇氏	
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	14名	11名	11名	18名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①　③	①　③	①	①　③
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要　第54号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成29年度研究集録			
	冊数	220冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　工業　　部会　平成29年度事業報告書

（研究会の部）　　　　　　　　　　　　　　　　　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	12月4日（月）			
	場所	新発田南高校			
	研究会名称	機械・電子機械研究会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「工作機械のメンテナンスおよび安全点検について」			
	講師職氏名	(有)星山技研 専務取締役 星山明紀氏			
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	25名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①			
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要　第54号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成29年度研究集録			
	冊数	220冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業　部会　平成30年度事業計画（案）

（見学会・講習会の部）　　　　　　　　　　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未定	未定	10月	10月
	場所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	電気・電子見学会	機械・電子機械見学会	建築見学会	土木見学会
	研究会テーマ「講演テーマ」	「　」	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要第55号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成30年度研究集録			
	冊数	220冊			

①　専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業　部会　平成30年度事業計画（案）

（見学会・講習会の部）　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目　的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期　日	10月	1月		
	場　所	未定	未定		
	研究会名称	工業科学 見学会	ロボット技術 研究協議会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「　」	ロボット技術 研究協議会 「　」	「　」	「　」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名　称	新潟県高等学校工業教育紀要第55号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成30年度研究集録			
	冊　数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研　工業　部会　平成30年度事業計画（案）

（研究会の部）　　　　　　　　　　　　　　　　　　部長　太田　洋一

	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
研究会・講習会等の開催	期日	7月	未定	未定	10月
	場所	アオーレ長岡	長岡工業高校	塩沢商工高校	上越総合技術高校
	研究会名称	工業化学研究会	電気・電子研究会	機械・電子機械研究会	土木研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「　」	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要第55号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成30年度研究集録			
	冊数	220冊			

①　専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業　部会　平成30年度事業計画（案）

（研究会の部）

部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月			
	場所	上越総合技術高校			
	研究会名称	建築研究会			
	研究会テーマ「講演テーマ」	「　」	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要第55号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成30年度研究集録			
	冊数	220冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　商業　部会　平成　２９　年度事業報告書

部長　内　野　信　昭

研究会・講習会等の開催	目的	経済の発展を担う商業教育			
	期日	11/10（金）	（　）	（　）	（　）
	場所	燕市産業史料館			
	研究会名称	ビジネス分野研究会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「燕三条から発信するグローカル」	「　　」	「　　」	「　　」
	講師職氏名	株式会社MGNET 武田修美　様			
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし			
	参加者数	9校　14名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①　②　⑤			
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	『新潟県商業教育』第５３号			
	主な内容	１．研究論文　　２．実務競技大会報告 ３．専門委員会報告　　４．各種研究会報告　　５．その他			
	冊数	145冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　商業　部会　平成　３０　年度事業計画（案）

部長　内　野　信　昭

研究会・講習会等の開催	目的	経済の発展を担う商業教育			
	期日	11月中旬	（　）	（　）	（　）
	場所	新潟商業高校			
	研究会名称	未定			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定 「　　」	「　　」	「　　」	「　　」
	講師職氏名	未定			
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定			
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ	未定			
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	『新潟県商業教育』第５４号			
	主な内容	１．研究論文　２．実務競技大会報告 ３．専門委員会報告　４．各種研究会報告　５．その他			
	冊数	330部			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　水産　部会　平成29年度事業報告書

部長　久保田　郁夫

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展を目指す			
	期日	平成29年12月1日（金）	（　）	（　）	（　）
	場所	糸魚川市（県立海洋高等学校）			
	研究会名称	平成29年度水産教育研究会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	水産海洋教育の充実 「近年の日本海沿岸の急潮（沿岸強流）研究の発展と予測システムの構築について」	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名	国立研究開発法人水産研究・教育機構 資源環境部 井桁　庸介			
	研究発表 テーマ・職・氏名	全国水産研究大会　報告 新潟県立海洋高等学校 教諭　金子　義昂 これからの海洋高校について（つわものら） 新潟県立海洋高等学校 校長　久保田　郁夫			
	参加者数	20名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①、③			
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数	船舶の知識ABC（1冊）、ビジュアルでわかる船と運航のはなし（1冊）、循環式陸上養殖（1冊）、水辺の小わざ（1冊）、七訂食品成分表2018（3冊）、よくわかる糸魚川の大地（1冊）、人類と機構の10万年史（1冊）			
刊行物出版 研究成果	名称	平成29年度水産教育研究			
	主な内容	平成28年度　水産教育研究のまとめ			
	冊数	45冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　水産　部会　平成 30 年度事業計画（案）

部長　久保田　郁夫

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展を目指す			
	期日	11月30日（金）	（　）	（　）	（　）
	場所	未定			
	研究会名称	平成30年度水産教育研究会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	水産海洋教育の充実 「　未定　」	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定			
	参加者数	30名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ	未定			
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	平成30年度　水産教育研究			
	主な内容	研究成果報告			
	冊数	45冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

家庭科部会

平　成　２９　年　度　事　業　報　告

部長　　吉原　満

研究会・講習会等の開催	目　　的	家庭科教育の充実と発展	
	期　　日	８月９日（水）	１１月３０日（木）
	場　　所	じょいあす新潟会館	長岡大手高等学校
	研究会名称	全県講習会	部会委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	実践力を育てる生徒参加型授業 １　講習 「亀田縞と和釘の オーナメント作り」 ２　講習 「保育技術検定評価研究研修 （全種目１～４級）」	１　報告・計画 平成 29 年度事業報告 平成 30 年度事業計画 ２　実践発表 ３　講習 「心地よい空間づくりから 衣食住を考える」
	講師職氏名	１　講習 和スタイル手芸店SATOWA 村上　知恵子　様 ２　講習 保育技術検定全国専門委員 上村　桂　様　小川　浩子　様 今多　靖子　様　柳澤　弘美　様 永原　邦代　様	講習 学校法人国際総合学園 新潟工科専門学校 細海　幹人　様 清水　彩子　様
	研究発表 テーマ・職・氏名		実践発表 「学校外の様々な専門家との連携 ～地域の方々と連携した食育の試み～」 柏崎常盤高等学校教諭　堀田　佳織
	参加者数	44名	59名
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名 冊数		
刊行物	名称	家庭科研究53号	
	主な内容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊数	160冊	

高教研　　家庭科部会　平成３０年度事業計画（案）

部長　吉原　満

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展	
	期日	７月３１日（火）	１１月３０日（金）
	場所	学校法人　北陸学園	長岡大手高等学校
	研究会名称	全県講習会	部会委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	報告・計画 平成30年度事業報告 平成31年度事業計画 その他未定
	講師職氏名	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定
	参加者数		
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名 冊数		
研究成果刊行物出版	名称	家庭科研究54号	
	主な内容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊数	160冊	

高教研　保健体育部会　平成２９年度事業報告書

部長　山田　学

<table>
<tr><td rowspan="9">研究会・講習会等の開催</td><td>目的</td><td colspan="2">保健体育科教員及び養護教員の研修</td></tr>
<tr><td>期日</td><td>１１月２７日（月）</td><td>１０月１７日（火）</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>デンカビッグスワンスタジアム</td><td>じょいあす新潟会館</td></tr>
<tr><td>研究会名称</td><td>保健体育部会全県研究会</td><td>全県養護教諭研修会</td></tr>
<tr><td>研究会テーマ

「講演テーマ」</td><td>タグラグビー実技

「授業に使えるタグラグビー指導法と実習」</td><td>生徒の『生き抜く力』を養うための養護教諭の役割と対応

「レジリエンス教育」</td></tr>
<tr><td>講師職氏名</td><td>内野小学校希望ヶ丘分校
教諭　小日向　文人　様</td><td>日本ポジティブ教育協会理事
鈴木　水季　様</td></tr>
<tr><td>研究発表
テーマ・職・氏名</td><td>講話
「新学習指導要領について」
「新潟県の体育の現状について」
新潟県教育庁保健体育課
学校体育指導係指導主事
間　健太郎　様</td><td>「気になる」児童生徒とのかかわりに焦点を当てた研究
（小・中学校部と共同研究）
養護教諭　池本　恵美　ほか</td></tr>
<tr><td>参加者数</td><td>３６名</td><td>９５名</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">研修分野の分類
下記①～⑦から選択。複数選択可。
主となるテーマを先頭に</td><td>①④⑦</td><td>①③⑦</td></tr>
<tr><td rowspan="2">研究調査</td><td>主要テーマ</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td>調査の期日
場所・参加者数</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td>図書購入</td><td>図書名
冊数</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研究成果
刊行物の出版</td><td>名称</td><td colspan="2">研究集録　第５４集</td></tr>
<tr><td>主な内容</td><td colspan="2">研究会、講演会の内容収録</td></tr>
<tr><td>冊数</td><td colspan="2">０部・・・ＨＰに掲載</td></tr>
</table>

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　保健体育部会　平成３０年度事業計画（案）

部長　山田　学

<table>
<tr><td rowspan="9">研究会・講習会等の開催</td><td>目的</td><td colspan="2">保健体育科教員及び養護教員の研修</td></tr>
<tr><td>期日</td><td>１１月下旬</td><td>１０月下旬</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>県立高等学校</td><td>じょいあす新潟会館</td></tr>
<tr><td>研究会名称</td><td>保健体育部会全県研究会</td><td>全県養護教諭研修会</td></tr>
<tr><td>研究会テーマ
「講演テーマ」</td><td>授業の実際
全県の体育科教諭が研修したい内容を精選し，決定する予定</td><td>生徒の『生き抜く力』を養うための養護教諭の役割と対応
「レジリエンス教育」</td></tr>
<tr><td>講師職氏名</td><td>精選された内容から講師を決定する予定</td><td>日本ポジティブ教育協会理事
鈴木　水季　先生</td></tr>
<tr><td>研究発表
テーマ・職・氏名</td><td>新学習指導要領の解説
文部科学省より派遣</td><td>「気になる」児童生徒とのかかわりに焦点を当てた研究
（小・中学校部と共同研究）
養護教諭　池本　恵美　ほか</td></tr>
<tr><td>参加者数</td><td>５０名</td><td>８０名</td></tr>
<tr><td colspan="2">研修分野の分類
下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に</td><td>⑦②⑥</td><td>①③⑦</td></tr>
<tr><td rowspan="2">研究調査</td><td>主要テーマ</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td>調査の期日
場所・参加者数</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td>図書購入</td><td>図書名
冊数</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研究成果刊行物の出版</td><td>名称</td><td colspan="2">研究集録　第５５集</td></tr>
<tr><td>主な内容</td><td colspan="2">研究会、講演会の内容収録</td></tr>
<tr><td>冊数</td><td colspan="2">０部・・・ＨＰに掲載</td></tr>
</table>

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　生徒指導部会　　平成２９年度事業報告書

部長　高島　徹

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽	
	期日	１０月２６日（木）	１１月１０日（金）
	場所	新潟少年学院	巻地区公民館
	研究会名称	上中越地区研究協議会	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	生徒指導の課題と対策 「少年院の現状について」	生徒指導の課題と対策 「高等学校における自殺予防教育の方向性と課題」
	講師職氏名	新潟少年学院 次長　岩田　俊一　様	関西外国語大学 教授　新井　肇　様
	研究発表 テーマ・職・氏名	講演 施設見学 質疑応答	研究協議 「交通事故防止について」 「特別支援について」 「いじめ・自殺予防について」 全体会 ・研究協議報告 ・指導助言 県教育センター教育支援班 指導主事　中村　悟利　様
	参加者数	２８名	４９名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①⑤⑦	①②⑦
研究調査	主要テーマ	育てる生徒指導教師は・・・・・生徒とどう拘わるべきか？	
	調査の期日 場所・参加者数	全県委員会を３回実施　　場所県立巻高等学校 第１回（6月29日19名）　第２回（9月1日23名）　第３回（1月24日22名）	
図書購入	図書名 冊数	なし	
研究成果刊行物出版	名称	生徒指導部会誌　第50号	
	主な内容	研究内容・資料・部会活動報告	
	冊数	４００	

専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　生徒指導部会　平成３０年度事業計画（案）

部長　高島　徹

<table>
<tr><td rowspan="8">研究会・講習会等の開催</td><td>目的</td><td colspan="2">生徒指導上の諸問題の把握と研鑽</td></tr>
<tr><td>期日</td><td>平成30年10月19日（金）</td><td>平成30年10月31日（水）</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>上越市市民プラザ</td><td>巻地区公民館</td></tr>
<tr><td>研究会名称</td><td>上中越地区研究協議会</td><td>全県研究協議会</td></tr>
<tr><td>研究会テーマ
「講演テーマ」</td><td>・生徒指導の課題と対策
「SNSなどに対する情報リテラシー教育、指導の在り方について」（仮）

詳細は第１回全県委員会で決定</td><td>・生徒指導の課題と対策
講演（予定）
「SNS・インターネットの適切な利用とトラブル防止」
「特別支援や生徒指導における専門家（SCやSSW）との連携について」（複数案他）
詳細は第１回全県委員会で決定</td></tr>
<tr><td>講師職氏名</td><td>未　定</td><td>未　定</td></tr>
<tr><td>研究発表
テーマ・職・氏名</td><td>・研究発表会（未定）</td><td>・研究協議会
分科会形式でテーマ毎に研究協議を行う
テーマについては、第1回全県委員会で決定</td></tr>
<tr><td>参加者数</td><td>３０名（例年参考）</td><td>５０名（例年参考）</td></tr>
<tr><td colspan="2">研修分野の分類
下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に</td><td>①②③⑦</td><td>①②⑦</td></tr>
<tr><td rowspan="2">研究調査</td><td>主要テーマ</td><td colspan="2">育てる生徒指導・・・・・教師は生徒とどう拘わるべきか</td></tr>
<tr><td>調査の期日
場所・参加者数</td><td colspan="2">全県委員会を中心に３回会議を行う
場所：県立巻高等学校　　参加予定数　27名</td></tr>
<tr><td>図書購入</td><td>図書名
冊数</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研究成果刊行物出版</td><td>名称</td><td colspan="2">生徒指導部会誌　第51号</td></tr>
<tr><td>主な内容</td><td colspan="2">研究内容・資料・部会活動報告</td></tr>
<tr><td>冊数</td><td colspan="2">400冊</td></tr>
</table>

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　図書館　部会　平成　２９　年度事業報告書

部長　木村　栄一

研究会・講習会等の開催	目的	1生徒の実態を踏まえての読書指導あり方 2情報化社会に対応した図書館運営のあり方			
	期日	8月10日（木）	12月14日（木）	（　）	（　）
	場所	生涯学習推進センター	生涯学習推進センター		
	研究会名称	総会・講演会	講演会		
	研究会テーマ「講演テーマ」	「学校図書館を活用した学習の必要性とその実現のための学校図書館コレクション」	「大学図書館における電子資料、高校図書館での電子資料の活用や導入について」	「　」	「　」
	講師職氏名	中村　百合子様（立教大学教授）	小島勢子様（国際大学松下図書館・情報センター司書）		
	研究発表テーマ・職・氏名	なし	なし		
	参加者数	14名	14名		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①	①		
研究調査	主要テーマ	図書館の利用状況に関するアンケート			
	調査の期日 場所・参加者数	1　県内高等学校図書館において適宜行う 2　講演会参加のメールにて調査依頼			
図書購入	図書名 冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	『図書館部報』第６２号			
	主な内容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等			
	冊数	２００冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　図書館　部会　平成３０年度事業計画（案）

部長　木村　栄一

研究会・講習会等の開催	目的	１生徒の実態を踏まえての読書指導あり方 ２情報化社会に対応した図書館運営のあり方			
	期日	８月上旬か中旬	１２月上旬		
	場所	生涯学習センター	生涯学習センター		
	研究会名称	総会・講演会	講演会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定		
	講師職氏名	未定	未定		
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定		
	参加者数	未定	未定		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①、②	①、②		
研究調査	主要テーマ	図書館の利用状況に関するアンケート			
	調査の期日 場所・参加者数	メールで依頼、８月の総会・講演会において持参・協議			
図書購入	図書名 冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	『図書館部報』第６３号			
	主な内容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等			
	冊数	２００冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　視聴覚部会　平成２９年度事業報告書

部長　須藤 良平

研究会・講習会等の開催	目的	生徒に多様なメディア情報を的確に処理する能力の育成を図るため、教師の力量を高める。					
	期日	4月 30日	5月 3日	6月 14日	8月 16日 17日	9月 12日	11月 14日
	場所	新潟市 万代市民会館	長岡市 まちなかキャンパス長岡	新潟市 音楽文化会館	新発田市「ますがた荘」	長岡市 市民センター	長岡市 長岡リリックホール
	研究会名称	新潟・下越地区初心者講習会	上越・中越地区初心者講習会	ＮＨＫ杯高校放送コンテスト 主催事業	放送技術者夏期講習会	総会 研究協議会	ＱＫ杯校内放送コンテスト 共催事業
	研究会テーマ「講演テーマ」	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	コンテストの評価方法	放送技術の実践的指導方法とコンテスト対策	大会入賞指導者講話 講話番組制作における権利処理方法	コンテストの評価方法
	講師職氏名	高文連専門部役員	高文連専門部役員	ＮＨＫ専門職 他	高文連専門部役員	高文連専門部役員	ＮＨＫ専門職 他
	研究発表 テーマ・職・氏名						
	参加者数	９人	５人	１８人	１人	１０人	１８人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	①専門分野
調査研究	主要テーマ						
	調査の期日 場所・参加者数						
図書・購入	図書名 冊数	第64回NHK杯全国高校放送コンテスト アナウンス・朗読部門決勝進出２０人集×１１セット 著作権フリーＢＧＭ・効果音集×１５セット					
研究成果刊行物出版	名称	「視聴覚教育研究第５５号」					
	主な内容	実践研究報告 平成２９年度のコンテスト結果と事業報告 ＮＨＫ杯全国大会優勝報告　全国総文祭優秀賞受賞報告					
	冊数	１００冊					

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　視聴覚部会　平成３０年度事業計画

部長　須藤 良平

研究会・講習会等の開催	目的	生徒に多様なメディア情報を的確に処理する能力の育成を図るため、教師の力量を高める。					
	期日	4月28日	4月29日	6月13日	8月16日 17日	9月中旬	11月14日
	場所	新潟市 万代市民会館	長岡市 まちなかキャンパス長岡	新潟市 音楽文化会館	新発田市 「ますがた荘」	新潟市 新潟明訓高等学校	新潟市 新潟明訓高等学校
	研究会名称	新潟・下越地区初心者講習会	上越・中越地区初心者講習会	ＮＨＫ杯高校放送コンテスト 主催事業	放送技術者夏期講習会 研究協議会	総会 研修会	ＱＫ杯校内放送コンテスト 共催事業
	研究会テーマ 「講演テーマ」	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	コンテストの評価方法	放送技術の実践的指導方法 アナウンス朗読特別講習	高総文祭ＮＨＫ杯コンテスト報告	コンテストの評価方法
	講師職氏名	高文連専門部役員	高文連専門部役員	ＮＨＫ専門職　他	専門職アナウンサー他	高文連専門部役員	ＮＨＫ専門職　他
	研究発表 テーマ・職・氏名						
	参加者数	８人	６人	２１人	１０人	１５人	１５人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	①専門分野
研究調査	主要テーマ	ＮＨＫ校内放送技術者講座					
	調査の期日 場所・参加者数	１２月下旬の２日間 東京都千代田放送会館・本県より2名程度派遣予定					
図書購入	図書名 冊数	第６５回NHK杯全国高校放送コンテスト アナウンス・朗読部門決勝進出２０人集　×　１１セット					
研究成果刊行物出版	名称	「視聴覚教育研究第５６号」					
	主な内容	実践研究報告 平成３０年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約					
	冊数	１００冊					

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研定通部会　平成２９年度事業報告書

部長　萩野　俊哉

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	平成２９年８月１日（火）	平成29年11月７日（火）
	場所	ＮＳＧ学生総合プラザＳＴＥＰ	明鏡高等学校
	研究会名称	平成２９年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会 新潟県高等学校通信制教育研究会	平成２９年度新潟県高等学校定時制・通信制教育研究協議会　各校情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「非行の心理～どう理解し、どう関わるか～」	県内 定時制・通信制高等学校情報交換会
	講師職氏名	新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科 准教授　佐藤　亨	
	研究発表 テーマ・職・氏名	①　学習指導「漢字と原稿の課題から考える基礎学力の向上と評価家」 十日町高等学校定時制課程　教諭　丸山　篤志 ②　生徒指導「本校の生徒指導の現状と課題～特別な支援を必要とする生徒への具体的取組～」 佐渡高等学校相川分校　教諭　池　義治 ③　特別支援教育「学びのユニバーサルデザイン～支援を必要とする生徒たちの学び直し」 長岡英智高等学校　教諭　今井　基也	① 定時教務 ② 通信制教務 ③ 生徒指導 ④ 特別支援教育 ⑤ 進路指導
	参加者数	162人（高校教員等158人，県教委3人，講師1人）	51人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		③　④　②	①　⑥
研究調査	主要テーマ	先進校視察（教育課程、生徒指導、特別支援教育など）	
	調査の期日 場所・参加者数	平成２９年１１月９日（木）、１０日（金）　参加者　２名 視察校　栃木県立学悠館高等学校、埼玉県立大宮中央高等学校 埼玉県立羽生高等学校	
購入図書	図書名		
	冊数		
研究成果刊行物出版	名称	実践集録　５５号	
	主な内容	上記定時制・通信制教育総合研究会等の報告	
	冊数	３８０冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研定通部会　平成３０年度事業計画（案）

部長　萩野俊哉

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	平成３０年８月１日（水）	未定
	場所	ＮＳＧ学生総合プラザＳＴＥＰ	堀之内高等学校
	研究会名称	平成３０年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会 新潟県高等学校通信制教育研究会	平成３０年度 新潟県高等学校定時制・通信制教育研究協議会 各校情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「未定」	県内 定時制・通信制高等学校情報交換会
	講師職氏名	「未定」	
	研究発表 テーマ・職・氏名	①　学習指導・進路指導　（以下予定） ②　生徒指導 ③　特別支援教育 発表：開志学園高等学校教諭 高田南城高等学校教諭	未定
	参加者数	１６０人	５０人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		③④②	①⑥
研究調査	主要テーマ	先進校視察（教育課程、生徒指導、特別支援教育など）	
	調査の期日 場所・参加者数	未　定	
図書購入	図書名 冊数		
研究成果刊行物出版	名称	実践集録　５６号	
	主な内容	上記定時制・通信制教育総合研究会報告	
	冊数	３８０冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

平成29年度新潟県高等学校教育研究会理事会議事録

日　時　　平成29年5月11日（木）13:30～15:00
会　場　　県立新潟南高等学校　視聴覚室
開　会　　桑原　勇重（県立新潟南高等学校　副校長）

1　会長挨拶　青山　一春　会長　（新潟南高等学校校長）

Ⅰ　今年度の方針及び活動の方向性について

今年度の入学生は H25 に現行学習指導要領が完全実施となり５年目の入学生となった。今春の卒業生で２巡したことになる。昨年も申し上げたが、現行学習指導要領に基づく高校教育は、これからが正念場である。従って、現行学習指導要領の趣旨を踏まえ、今年度も引き続き次の２点を会の方針として教育研究活動を行いたいと考えている。

①　全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力の育成　＜共通性の確保＞
②　多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応　＜多様化への対応＞

一方、国内外の学力調査によると、高校等に入ってくる子供たちの学力については、子供たちの９割以上が学校生活を楽しいと感じ、保護者の８割は総合的に見て学校に満足しているという結果である。

しかし、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べることなどについては課題が指摘され、また、学ぶことの楽しさや意義が実感できているか、自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながるという意識をもてているかという点で、肯定的な回答が国際比較で相対的に低いことも指摘されている。そこで、今年度は、次のことも方針の一つに加えたい。

③　自分の人生や社会とのつながりを実感し、自らの能力を引き出す教育の実践

意識していただきながら部会運営をお願いしたい。

Ⅱ　「魅力ある高教研・部会活動」(高教研活性化策、会員増への取組)について

(1)　経緯

一昨年12月に、このことに関するアンケートを実施した。各部会長様には協力を感謝申し上げる。

昨年度の理事会で「魅力ある高教研・部会活動」に関する活性化策についてご審議いただき、部会運営および連動して会計処理について、以下の２点が承認された。

①　高教研の活性化ひいては会員増に結びつくよう、魅力ある部会づくりに努めること。
②　魅力ある講師を招聘すること等、魅力ある活動ができるよう、「繰越金制度」を導入し、部会会計の運用の改善を行うこと。

後ほど28年度決算・H29年度予算において担当より詳しく説明する。

(2)　魅力ある部会づくりのお願い

会員数について、平成25年度に2,000人を切り、以降2,000人を割り込む状況が続いていたが、今年度2,005人と二千人台を回復した。部長先生方を中心にご尽力いただいた結果

と感謝申し上げる。しかしながら、予算的には、予想されてきた危機的な状態が表面化するという状況である。

p14 の「会員数」を見ると、「各部会の魅力」がまだ十分に先生方に伝わっていない、ご理解いただいていないことが考えられる。

各部会においては、より一層部会運営の工夫改善を進めるとともに、すべての先生方にアピールし、「魅力ある高教研・部会活動」が会員増にも繋がるようお願いする。

(3)　適正な会処理のお願い

昨年度、特別会計の実態について、事務局として聞き取り調査を実施した。その結果、4部会で会計管理が教諭の個人管理となっており、さらにある部会では現金管理をしているという実態が分かり、各部会長に改善を求めたところである。今年度から、いわゆる特別会計は一切なく、何ら疑義をもたれることのないよう会計処理の運用基準を変更した。各部長の責任において会計処理、部会運営を行い、部会誌の広告の在り方も含め、疑念を持たれることのないようお願いする。

最後に、高教研の活動が各学校の活性化、授業改善に結びつき、新潟県の生徒のためになることを祈念して、開会の挨拶とします。

議員定数 80 名。

出席　41 名（実人数 37 名）、委任状 35 名（実人数 26 名）合計実人数 63 名。

規約第 14 条により、本会の成立を確認。

2　議長選出　慣例により、青山　一春　会長を選出

3　議事

①　平成 28 年度事業報告　　　伊皆　嘉樹　幹事（新潟南高等学校教頭）

理事会資料２ページ参照。

各部会の目的は前年度と変わらず、それぞれの目的に向け、活発に事業が行われた。

平成 28 年度の研究会は合計 53 回で、前年度とほぼ同水準であった。研究発表は 42 組となり、大きく減少した。一方、講師を招いての講演が増えた。昨年度、各研修会に参加した人数は 2169 名（前年度に比べ 200 名増）。目に見える活性化の様子がうかがわれる。

―質問・意見なし。①平成 28 年度事業報告について承認―

②平成 28 年度の活動から　　　伊皆　嘉樹　幹事　　（新潟南高等学校教頭）

１．研究会については活発な取り組みがなされている（詳細については年報参照）

２．教育研究助成等に関して

財団法人新潟県教職員厚生財団様、公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様から

合計60万円の助成を受け、運営に役立てている。

３．会の運営について

（１）高教研ホームページについて

年々ホームページが充実しており、情報発信や連絡に役立っている。各部会にはいっそうの充実をお願いしたい。

（２）経費削減について

事務局の運営経費を抑え、その分を各部会の活動費へまわす努力を続けている。郵送や電子メール、ホームページからダウンロードするものなどを適切に使い分け、経費節減を進めていく。

４．高教研の活性化について

平成28年度は会計運用の方法を見直し各部会で積み立てのできる形に改めている。平成28年度末で約80万円の積み立てができた。ここ2～3年でその成果が具体的な形となって現れるものと期待している。

―質問・意見なし。②平成28年度の活動からについて　承認―

② 平成28年の決算報告　　田澤　弘美　幹事（新潟南高等学校）

理事会資料4,5ページ「平成28年度　収支決算書」　参照。

以下を訂正願う。5ページ2．研究調査費の会議費摘要の欄にある「水産13冊、視聴覚5冊」は3．研究図書購入費の摘要のもの。

<収支の部について>

28年度は、昨年5月11日現在の会員数1,965人で予算を組んだところ、その後に追加加入があり、最終会員数は1,974人となり、会費の総額は18,000円増となった。例年通り、県教職員厚生財団様と教育公務員弘済会様より、助成金60万円より助成金をあわせて600,000円いただき、さらに27年度よりの繰越金などを合わせて、収入の合計金額は5,198,375円となった。

<支出の部について>

比較増減の欄について、残金の出た部会には返金をしていただいた。5ページⅡの費目別の欄の「1．研究大会費・通信運搬費」の支出が増えた。多くの部会で会議費を押さえたこともあり、経費を切り詰めてくださったことがうかがわれた。6．本部関係費は、前年度同様、封筒などの消耗品、事務用品、振込用紙など、過去のもので対応できたので、削減できたが、29年度は不足分の補充が必要なので、事務費が若干増える予定。収入決算額より支出決算額を引いて996,854円が次年度への繰越となった。

小林　皇司　会計監査委員（新潟商業高等学校）より、執行状況が適正であると報告。

①例年より監査の作業に時間がかかった。各部会の報告は事業や会計作業が終わり次第、速

やかに事務局に提出してほしい。
②今年度は996,854円となり、30万円ほど繰越金が多くなっているが、実際には各部会の積み立ての金額である。実質的な次期繰越金はとても少ないので、事務局の経費を大幅に削り予算をたてなければならない状況であった。今後、会費、各部会への配当額の見直し、会員の増加など、抜本的な改革が早急に必要なのではないか。

一質問・意見なし。③平成28年の決算報告について　承認―

④平成29年度役員の交代・補充について　　　高山　誠　幹事（新潟南高等学校）
理事会資料7ページ「平成29年度　高等学校教育研究会役員（案）」参照。
今年度は役員改選の年ではないが、退職・異動に伴う役員の交代、補充を行う。各部会長から推薦された役員案を掲載した。規約23条により、任期は前任者の残りの期間となる。
一質問・意見なし。平成29年度役員の交代・補充について　承認―

⑤高教研会計規約について　　　伊皆　嘉樹　幹事（新潟南高等学校教頭）
理事会資料8ページ参照。
会計取り扱い要領を定め、一層適正な運用ができるようにしたい。
＜補足＞理事会資料8ページ参照
7については、日常の決済業務を委任している場合であっても、半期前の会計の点検、年度末の会計は部長が直接行うようにお願いしたい。
理事会資料9ページ参照。
高教研各部会会計取り扱い要領に関するQ&Aについて説明

青山　一春　会長（新潟南高等学校長）
高文連にならった形になっている。

一質問・意見なし。⑤高教研会計規約について　承認―

青山　一春　会長（新潟南高等学校長）
取扱要領に関する事務的な連絡は今後事務局よりお願いすることとする。取扱要領については、右上の平成29年4月1日付高教研第3号を後ほど送付する。事業がすんだら、早めに手続きをお願いしたい。

⑤－２　高教研予算配分基準の見直しについて　伊皆　嘉樹　幹事（新潟南高等学校教頭）
理事会資料10ページ参照
積み立て方式に移行したことに伴い、以降以前であれば事務局運営費にまわっていた分がまわらなくなっている状況がある。そのため、事務局としての最低限活動する費用を残すため、次年度から以下のように変更をお願いしたい。

１．各部会に配分する活動費の算出方法　12 万円を基礎額として会員数に応じた金額を上乗せしていた。平成 30 年度の予算編成からは、会員数に応じた金額を変更し、事務局が運用できる最低額を残せる値として、その都度決定していく。平成 29 年度の予算編成上、予備費から 10 万円を活動費として用意する。毎年 10 万円残るように予算配分する。

青山　一春　会長（新潟南高等学校長）

今回の制度変更の改善について、会員が増えればこの問題は解消されるが、急に会員増は見込めない。今年度については予備費を充てるが、平成 30 年度に予備費がなくなると事務局の運営ができなくなるため、このような案を出した。今後、会員が増えれば解消されるし、他に良い案があれば、その方向へ改善を進めていきたい。

―質問・意見なし。⑤－２　高教研予算配分基準の見直しについて　承認―

＜高教研会計に係る補足事項について＞

理事会資料 10 ページ参照。

１．広告収入の取扱いは今後も同様の処理をする。実際にどれだけの値引きがあったかを明確にしたいので、平成 29 年度の決算報告から広告収入の額を備考欄に記載して、明確にしておく。

２．各部会で作成した通帳の口座情報について事務局に報告をお願いする。6 月 15 日（木）を締め切りとする。

青山　一春　会長（新潟南高等学校長）

広告収入の値引きなので、印刷費を超えるような広告の依頼はないと考えている。備考欄への記入も透明性を確保し、説明責任を果たすという趣旨のため。営利団体ではないので、外から見て誤解を受けることがないように、各部会長にお願いしたい。

小野島　惠次　副会長（高田高等学校長）

広告の取扱いについて悩ましい部分ではあるが、例えば収入ということを考えると、年報も広告を載せる必要があるのでは、という考えがでてくる。そうなると、研究・研修の団体として、広告の収入を得ることは趣旨にあっているのだろうか。そもそも、会員数が伸びない根本的な矛盾がある。全県大会が平日である以上、教員全員が研究会に出席することは実質的に不可能である。年に１～２回の研究大会に、会員でありながら参加できないことになり、会員であるメリットがない。そこで、研究大会の開催方法など、各部会で工夫をする必要がある。参加しやすい大会運営をすることで、会員数の増加につながるのではないか。

今年度の予算組を見てみると、各部会では研究大会と刊行物にしか予算を使っていない。お金をかけて成果を冊子にすることの意味があるのだろうか。記録として冊子を残すことは必要だが、お金を払った分の対価として冊子を送るのみに終始していないか。本来は授業改善や先生方の研修につながるような研究や実践がなければ、会員になっている意味がな

いのではないか。会員数を確保するためには、より自主的に教員にとって意味のある内容でなくてはならないし、そのために各部会が運営をしていかなくてはならない。

また、高教研として、教育委員会や議会に活動を理解してもらう必要がある。私的な団体として私的な研修として扱われていたら、研修本来の形にならないのではないか。県によってその扱いが大きくちがう。教育センターが研究や研修、支援する機関として、高教研の各部会と密接なつながりがあるのは事実である。このことから、教育委員会との連携はもっと進めていくべきだし、会場費として県の施設の協力を得て、会場費のなかで節約するということは当然考えられることである。この会の立場を教育委員会に発信して、理解してもらう必要がある。

会員数を増やそうとすると、現実的な矛盾から目をそらさずに、各部会で工夫していくべきである。そうしないと会員からの収入増加は見込めないので、今年度は各部会で運営をぜひ見直していってほしい。

青山　一春　会長（新潟南高等学校）

各部会で工夫、改善、魅力ある部会づくりをお願いするとともに、今ほどのご指摘の通り、事務局としても県と協議したい。

―　高教研会計に係る補足事項について　承認―

⑥平成 29 年度事業計画案について　　　　　渡邉　尚紀　幹事（新潟南高等学校）

理事会資料 11 ページ参照。

すべての部会で昨年と同様の案である。詳細は高教研ホームページ年報に掲載する。

―質問・意見なし。⑥平成 29 年度事業計画案について　承認―

⑦平成 29 年度予算案について　　　井上　幸一郎　幹事　（新潟南高等学校）

理事会資料 12 ページ参照。（案１）（案２）の 2 種類を用意した。

5 月 10 日現在の実会員数は 2,005 人であった。現時点での実会員数は、昨年度より 40 人多い。

＜収入の部について＞

前期繰越金 1,542,914 円は、各部会の独自会計から積み立て分を除いたもの。各部会の予算に繰り入れる。会費については、2,005 人×2,000 円で 4,010,000 円となった。助成金として 805,000 円となっているが、県教職員厚生財団様と教育公務員弘済会様からのもの 600,000 円に加え、各部会への外部団体からの助成 205,000 円が加わったものである。繰越金 996,854 円については、28 年度の各部会の残金（積み立てに回るもの）792,038 円、事務局関係費・予備費への繰越額は 204,816 円となっている。

収入合計は 7,354,902 円。（案１）と（案２）の額は同じであるが、表記の仕方を変えている。収入の部一番上にある前期繰越金と一番下にある繰越金（積み立て区分）の計上の仕

方が異なっており、(案２)は事務局関係費と各部会積立分を分けて記載している。次年度以降は(案２)の形で予算案を作成したい。

＜支出の部について＞
（案１）（案２）とも支出の部については同じである。28年度から、前年度の残金を各部会の予算に積立金として繰越している。さらに、今年度は各部会の独自会計もそれぞれの部会に繰り入れているので、表の支出の部の積立（b）部会独自会計残（c）外部団体補助（d）という欄を設けた。28年度については11部会で繰越があり合計792,038円(b)、各部会独自会計の合計金額は1,542,914円（c）である。外部団体補助の合計が205,000円となり、内訳は御覧のとおりである。各部会への会員数による配当（a）4,692,000円を加え、今年度予算額(a＋b＋c＋d)の合計が7,231,952円である。これに事務局関係費122,950円、支出額の合計が7,354,902になっている。今年度は予備費を０円として事務局の運営費に充てている。今年度は28年度からの積立による繰越金が前年度より346,494円多い996,854円であったが、前期繰越金は232,465円のマイナスとなり、事務局関係費に回る繰越金が減少している。各部会への配当も含め、次年度以降は予算配分執行等を考えていく必要がある。

青山　一春　会長（新潟南高等学校）
収入の部について、事務局と各部会のちがいがはっきりとわかるように、表記方法を(案２）の形に移行していきたい。

―質問・意見なし。収入の部の表記形式（案２）について　承認―
⑦平成29年度予算案について　承認―

青山　一春　会長（新潟南高等学校）
これまでの特別会計はなくし、ひとつの通帳で一本化していく。この金額で活性化への工夫をしていただきながら、適正な会計規模に移行していくようお願いする。

⑧その他
上杉　肇　数学部会長（三条高等学校）
研究会には、指導主事の先生方に来てほしい。センターの指導主事の指導を受けたいので、事務局からお願いしてほしい。旅費についても協力をお願いしたい。

青山　一春　会長（新潟南高等学校）
事務局より、教育センターや県に申し入れ、相談をしていく。

4　部会報告　「平成28年度高教研部会取り組み状況」

①理科部会　　加藤　徹男　部長（県立直江津中等教育学校長）

理事会資料p.16参照。

役員会、科目別の教育研究会、部会刊行を行った。科目別教育研究会においては、研究発表や教授を招いての講演会、巡検会を行った。昨年度は生物で、早稲田大学の教授を招いた。他の科目では県内講師を招いた。その時に応じた研究発表もあるが、ＳＳＨ指定校での実践内容の紹介が含まれる割合が増えた。年2回行われる役員会では、県内大学に会場を借用し、研究者の講演を依頼している。昨年度は、7月の役員会を新潟薬科大学で行った。理科教職免許が取得できるコースを設定しており、取り組みの様子や実績の話を伺った。2月の役員会は県立自然科学館で行い、学校でも取り組めそうな液体窒素を使った実験を見せてもった。数年前からこのような形をとっているが、私立の大学（理系が関係するような大学）を訪れることで、大学施設・設備や学生の様子を見る機会となり、私立大学の取り組みの様子など、偏差値で見ているような大学の情報とは違う視点の生の情報が得られ、役立っている。会員数の確保のために、一日日程ではなく、半日日程に変える工夫などしているが、内容を充実させること、教員が出席しやすい時間設定など、今後も模索していきたい。

②工業部会　　太田　洋一　部長（県立長岡工業高等学校長）

理事会資料p.17参照。

工業の科目数は61科目ある。それぞれの専門をもって指導に当たっている中で、電気・電子、機械・電子機械、土木・建築、工業化学に分かれて見学会、研究会、講演会を行っている。生徒の学びがどのような形で直接的、間接的に生かされるのかということ、またどういったことを習得すれば工業人の育成につながるのか、教員自身が発することが大切である。産業現場での見学会が不可欠である。ロボット技術研究協議会では、ロボット競技が盛んで、新潟県は上位入賞している。それらの技術について、県内の学校同士で技術を共有することで新潟県全体の技術の向上を図る協議会である。研究会、講演会も日進月歩の工業技術について、企業の最先端の技術に触れる必要があるので、職員相互の研究会に加え、企業の関係者からの技術指導を伴う研究会などが行われている。県外のテクノスクールや職業大学校など、職員の一年間の長期派遣研修の成果を部会誌にも掲載している。近年、見学会や研修会の参加者は減っている。また、参加者が同じ顔触ればかりという現実もある。このような状況をふまえ、より魅力ある企画などを通し、工業教育の質の向上を進めていきたい。

③家庭科部会　　吉原　満　部長　（県立長岡大手高等学校長）

理事会資料p.18参照。

年2回の研修会がある。全県講習会（8月）は実習があるので夏休みに設定している。部会委員会（12月）。参加者数を増やすことが課題である。家庭科の特徴は、人生すべてが学ぶ対象であるということだ。学ぶジャンルが多い中、午前中は「くらしとリスク管理」「食育」などをテーマとし、ワークショップ形式で行った。「消費者教育」などの研修も行った。平成32年から保育検定を各県で行うこととなっている。保育の専門知識を持った教員は少な

く、現在では保育の検定員を育てるために、保育検定の研修を入れて、新たな動きに向け、準備をしている。家政系の学科がなくなったり、単位数減少したりすることに伴い、家庭科の教員の絶対数が減少しているという状況が悩ましいところである。

④生徒指導部会　高島　徹　部長　（県立巻高等学校長）

理事会資料 p. 19 参照。

いじめと自殺などの高校教育の最大の課題に対し、実践に即して解決していこうとする形で運営を行ってきた。全県委員会を年に3回開催し、事業計画を行い、部会編集会議を行った。昨年度の上越地区の研究協議会においては、法制保護の現状と課題として、保護観察官を招き、少年院から出てきた子供たちを社会に送り出すための保護観察官の仕事について、また保護司との連携でどのように少年の更生を進めていくかという講演をしていただいた。糸魚川高校、上越高校の生徒指導全般の実践発表もあった。

最も大きい事業は、全県研究協議会であり、障がい者差別解消法の施行に伴い、学校の中でどのような合理的配慮が必要なのか、実例を交えながらセンター指導主事より講演をしていただいた。ケーススタディを通し、有効な方法を模索した。支援を必要とする生徒理解と関係機関の連携について意見交換をした。また、保護者との連携について、保護者からの要望と対応事例について研究協議を行った。自転車通学の実態、問題解決においての各校の取り組みを協議した。

今年は、11 月の全県研究協議会では「自殺予防教育」について講演の予定。できるだけ実践的なものを盛り込み、すぐに現場で役立てるような活動、研究を進めていきたい。

5　事務連絡

理事会部会資料 13 ページ参照。

6　閉会挨拶　　宮田　佳則　副会長　（県立長岡高等学校長）

新潟県高等学校教育連盟規約がＨＰに載っている。この会の目的は「新潟県の高等学校教育を振興・発展させること」とある。そのために行う事業とは次の４つである。①調査研究、②研究協議会や講習会や講演会等、③会員の研究援助、④その他、である。具体的に何をやるかヒントとなるものは書いていないが、新学習指導要領への対応や、学校によっては新しい大学入試制度に取り組み、県では特色ある学校づくり・個を伸ばす教育などが推進されている。それらへの対応はもちろん必要だが、特に教科教育について大きな視点で見れば、子どもたちが好奇心を持って、興味を持って自ら学び、将来必要となる学力を身につけられるような方策を研究していくことが高教研の目的なのではないか。

人が行動するときに、その動機となるものは４種類ある。①恐怖、②利益、③名誉、④好奇心、である。４つ目の好奇心は、珍しいことや未知なことに対する興味関心である。この４つの動機の順位は、うしろになるほど行動が長続きする。おもしろい、もっとやりたい、もっと知りたいと思うと自発的な行動につながる。

ノーベル物理学賞の梶田先生のシンポジウムでは、ある高校生が「研究でうまくいかなか

ったこともある中で、ここまでこられた原動力は？」と聞いたところ、先生は「好奇心です」とおっしゃっていた。教員は生徒が好奇心を持って学習を取り組むような指導力をつけ、教育に対する熱意をもって、結果として生徒ひとりひとりが能力を伸ばせるように、これからも高教研の教育研究活動の充実をはかっていきたい。

平成29年度の活動から

1　研究会等

今年度も各部会の精力的な努力によって各種の研究会（講習会・見学会・展示会等）が開催されました。詳細については一覧をご覧ください。

2　研究助成等に関して

ここ数年来の会員数の減少傾向には一定の歯止めがかかったものの、会費収入は伸びず、予算面で厳しい状況が続いています。このような状況の中で財団法人新潟県教職員厚生財団、及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部からご支援をいただき、本会の運営にあたっています。紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

3　会の運営について

(1)高教研ホームページについて

平成26年8月に開設した高教研ホームページですが、各部会から積極的に御活用いただいており、情報発信や会員間の連絡に大いに役立っております。事務局においても、各種様式をホームページからダウンロード可能とする等、各部会等との連携強化と運営の効率化を図っています。今後も有効に活用くださるようお願いします。

新潟県高等学校教育研究会ホームページ	http://www.kokyoken.nein.ed.jp/

(2)会員募集方法の変更について

加入申込の方法について、従来は申込書を郵送する形で行っていましたが、平成29年度から電子メールによる申込に変更しています。校務のデジタル化が進む昨今、加入希望者の名簿をデジタルファイル(MS エクセル)で作成することにより、各所属の委員(副校長・教頭)並びに各部会幹事の業務を、一層正確に、効率的に行えるようになったと考えております。

(3)会計取扱要領について

会計の更なる適正な執行及び透明性確保の観点から、「部会会計取扱要領」を定め、平成29年度から施行しています。また、所得税納入に係る規約も一部見直しをしました。

4　高教研の活性化について

高教研活性化の一つの在り方として、平成28年度理事会にて決定し、同年度から実施した「積み立て方式」ですが、各部長の意図に沿って着実に積み立てが進んでいます。一部の部会では、大胆な予算配分により講演会を実施するなど、活性化策の成果が早くも現れています。

各部会におかれましては、特色ある研修会等を年報や高教研ホームページ等も活用ながら広く周知いただくとともに、未加入の先生方、特に新採用の先生方へ積極的にお声がけをいただきますようお願いします。

（文責・幹事：新潟南高等学校　教頭　伊皆　嘉樹）

平成18年度以降予備費からの各種　大会への出資状況

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	計
		国　語	地歴公民	数　学	理　科	芸　術	英　語	農　業	工　業	商　業	水　産	家庭科	保健体育	生徒指導	図書館	視聴覚	定　通	
H18	理科　北信越大会				20000													20000
H19	工業　関東甲信越地区大会								20000									40000
	数学　北陸四県数学研究会			20000														
H21	工業　北信越大会								20000									40000
	生徒指導　講師謝礼の補助													20000				
H22	美・工、書全国大会					30000												30000
H23	無し																	0
H24	英語　スピーチコンテスト関係旅費補助						30000											30000
H25	英語スピーチコンテスト関係旅費補助						40000											70000
	工業北信越工業化学教育研究大会補助								30000									
H26	工業北信越工業化学教育研究大会補助								20000									20000
H27	無し																	0
H28	工業北信越工業化学教育研究大会補助								30000									30000
H29	無し																	
		0	0	20000	20000	30000	70000	0	120000	0	0	0	0	20000	0	0	0	280000

平成29年度　収支決算書

収入の部

区　分	予 算 額(a)	決 算 額(b)	比 較 増 減(b−a)	摘　　要
会　　費	4,010,000	4,022,000	12,000	年額一人2,000円×　2011人 (予算作成時までの会員数2005人。6人増)
助 成 金	805,000	805,000	0	県教職員厚生財団(40万)・教育公務員弘済会(20万)・ 外部団体から部会へ補助(数学・家庭・視聴覚・定通)
雑 収 入	134	17	△ 117	利子
前期繰越金	204,816	204,816	0	事務局関係費・予備費繰越
繰越金 (積立含む)	2,632,176	2,632,176	0	平成28年度各部会積立(792,038円)・ 各部会独自会計から繰入れ【1,840,138円 水産部会(42円)・芸術部会からの追加繰入れ(297,182円)含む】
合　　計	7,652,126	7,664,009	11,883	

支出の部

Ⅰ部会別

区　分	予 算 額(a) (積立金を含む)	決 算 額(b)	比 較 増 減(b−a) 次年度積立金	摘要 研究大会	研究調査	研究図書	研究成果刊行	その他	備考
1. 国　　語	354,009	306,107	△ 47,902	40,905	22,202	0	243,000	0	
2. 地歴公民	471,972	311,594	△ 160,378	208,594	0	0	103,000	0	
3. 数　　学	985,752	365,383	△ 620,369	327,383	0	0	38,000	0	
4. 理　　科	481,715	420,189	△ 61,526	162,189	0	0	258,000	0	
5. 芸　　術	657,024	407,177	△ 249,847	391,993	0	15,184	0	0	予算額が予算作成時より279,182円増
6. 英　　語	956,820	122,864	△ 833,956	38,891	0	0	63,973	20,000	
7. 農　　業	284,000	244,158	△ 39,842	117,198	0	126,960	0	0	
8. 工　　業	328,767	272,883	△ 55,884	182,883	0	0	90,000	0	
9.商　　業	245,000	245,000	0	100,000	0	0	145,000	0	
10.水　　産	168,937	168,650	△ 287	105,033	0	22,217	41,400	0	予算額が予算作成時より42円増
11.家 庭 科	354,666	299,349	△ 55,317	199,349	0	0	100,000	0	
12.保健体育	348,452	130,321	△ 218,131	130,321	0	0	0	0	
13.生徒指導	446,834	295,106	△ 151,728	142,956	10,886	0	141,264	0	
14.図 書 館	493,080	173,005	△ 320,075	97,405	0	0	75,600	0	
15.視 聴 覚	362,975	254,515	△ 108,460	73,940	0	106,435	54,000	20,140	
16.定　　通	589,173	381,825	△ 207,348	176,907	63,330	0	141,588	0	
本部関係	122,950	31,856	△ 91,094						
予備費	0	0	0						
合　計	7,652,126	4,429,982	△ 3,222,144	2,495,947	96,418	270,796	1,494,825	40,140	

Ⅱ費目別

区分	予算額(a)	決算額(b)	比較増減(b−a)	摘要
1. 研究大会費	3,579,502	2,495,947	△ 1,083,555	
謝金	1,332,414	975,394	△ 357,020	
旅費	505,638	258,928	△ 246,710	
使用料及び賃借料	583,235	399,207	△ 184,028	会場使用料・設備使用料・借りあげバス等
資料費	422,000	356,212	△ 65,788	
通信運搬費	403,491	333,439	△ 70,052	切手, 送料, 手数料等
賃金	120,000	94,844	△ 25,156	テープ起こし
会議費	212,724	77,923	△ 134,801	茶, 茶菓子, 講師弁当等
2. 研究調査費	256,000	96,418	△ 159,582	
資料費	63,000	0	△ 63,000	
通信運搬費	131,000	68,198	△ 62,802	
会議費	62,000	28,220	△ 33,780	
3. 研究図書購入費	169,000	270,796	101,796	
4. 研究成果刊行費	1,837,074	1,494,825	△ 342,249	
5. その他	1,681,663	40,140	△ 1,641,523	
6. 本部関係費	122,950	31,856	△ 91,094	
事務費	92,950	31,856	△ 61,094	通信費
会議費	10,000	0	△ 10,000	
刊行費	20,000	0	△ 20,000	コピー用紙, 製本代
7. 予備費	0	0	0	
合計	7,646,189	4,429,982	△ 3,216,207	

収入決算額	7,664,009
支出決算額	4,429,982
次年度繰り越し	3,234,027 (各部会次年度積立金含む)

役　　員

理　　事

会　長	青山　一春	新潟南		
副会長	上原　洋一	新潟中央	藤井　人志	新発田
	宮田　佳則	長　岡	小野島　惠次	高田
	渡辺　剛	佐　渡		
顧　問	飯田　昭男	新潟		

部　　会							
No.	部会名	部長	副部長				
1	国語	中戸　義文 新潟豐	富樫　信浩 白根	吉井　裕也 五泉	勝山　宏子 小出	北岸　信治 新潟	
2	地歴公民	岩田　宏樹 村上中等	滝澤　卓 阿賀黎明	遠間　春彦 三条商業	君　伸一郎 佐渡中等	平原　孝之 久比岐	
3	数学	上杉　肇 三条	桑原　弘秀 新潟東	志田　重道 新津	倉嶋　和夫 三条東	内田　卓利 松代	石井　一也 柏崎翔洋中等
4	理科	加藤　徹男 直江津中等	髙倉　聡 新井	田邊　薫 有恒	桑原　勇重 新潟南	堀　昌明 新潟向陽	
5	芸術	大田　英則 新発田農業	小堺　さとみ 出雲崎				
6	英語	萩野　俊哉 新潟翠江	山賀　淑雄 髙志中等	山川　徹也 新津工業	杉田　勉 糸魚川	石橋　弘光 燕中等	渡邉　優子 長岡大手
7	農業	熊谷　秀則 加茂農林	大田　英則 新発田農業	中村　満夫 長岡農業	熊倉　肇 髙田農業	佐々木　雅伸 佐渡総合	
8	工業	太田　洋一 長岡工業	山川　徹也 新津工業	大湊　卓郎 新潟県央工業	木村　勉 上越総合技術		
9	商業	内野　信昭 新潟商業	田辺　信男 新発田商業	大友　康幸 長岡商業	山本　久 髙田商業		
10	水産	久保田　郁夫 海洋	山口　活水 海洋				
11	家庭	吉原　満 長岡大手	清水　源一 巻総合	大友　康幸 長岡商業	伊藤　晶 柏崎常盤	佐々木　雅伸 佐渡総合	
12	保健体育	山田　学 豊栄	柴田　圭介 市立明鏡	入澤　享 小千谷西	熊倉　肇 髙田農業	森川　幸彦 豊栄	
13	生徒指導	高島　徹 巻	上杉　一浩 西新発田	入澤　享 小千谷西	熊倉　肇 髙田農業	吉田　保夫 羽茂	
14	図書館	木村　栄一 塩沢商工	田辺　信男 新発田商業	須藤　良平 糸魚川白嶺	渡辺　剛 佐渡		
15	視聴覚	須藤　良平 糸魚川白嶺	富樫　信浩 白根	五十嵐　雅実 新潟県央工業	阿部　正一 十日町総合		
16	定通	萩野　俊哉 新潟翠江	佐藤　康広 荒川	石和田　弘 長岡明徳	柳沢　幸也 髙田南城	渡辺　剛 佐渡	神田　正俊 開志学園

会計監査委

小林　皇司　新潟商業　　斎藤　直人　市立明鏡　　笠井　兵彦　新潟東

委　員

地区	学番	学校名	委員氏名	人数
新潟	1	新潟	夏•見康彦	54
	2	新潟中央	丸山綾子	48
	3	新潟南	伊皆嘉樹	34
	4	新潟江南	小林英明	19
	5	新潟西	藤田純子	20
	6	新潟東	笠井兵彦	10
	7	新潟北	竹田直人	9
	8	新潟工業	菊池啓一	51
	9	新潟商業	佐藤直人	33
	10	新潟向陽	堀　昌明	12
	11	新潟翠江(定)	萱森茂樹	20
	11	新潟翠江(通)	石澤　聡	13
	12	巻	長田　裕	22
	13	巻総合	遠宮武志	17
	14	豊栄	森川幸彦	8
	15	新津	坂元淳子	21
	16	新津工業	住吉　宏	18
	17	新津南	山田淳一	9
	18	白根	泉田啓子	3
	市1	万代	石積　希	16
	市2	明鏡	齊藤直人	23
	市中等1	高志中等	三林伸広	13
	特1	新潟盲	嶋見真理子	2
	特2	新潟聾	中戸義文	3
	特15	東新潟特別支援	山口八重	4
	私1	新潟明訓	青山洋一	70
	私2	北越	中村　誠	25
	私3	新潟青陵	永井孝史	13
	私6	新潟第一	平田龍彦	64
	私7	東京学館新潟	石山雅一	47
	私8	日本文理	星野　透	18
	私17	開志学園	小嶋健慈	5
五泉・新発田	19	五泉	山田喜昭	8
	20	村松	櫻井麻利子	12
	21	阿賀黎明	池田　匡	9
	22	新発田	田中　健	22
	23	西新発田	渡邉孝弘	4
	24	新発田南	松原直樹	25
	24	豊浦分校	長浜力也	3
	25	新発田農業	村山英司	28
	26	新発田商業	渡辺昭彦	13
	27	村上	島田　修	13
	28	村上桜ヶ丘	竹園克裕	24
	29	荒川	髙松利治	13
	30	中条	江川　真	7
	31	阿賀野	藤原昌晴	5
五泉・新発田	特7	村上特別支援	市川克行	1
	私12	新発田中央	上山裕二	11
	私13	開志国際	相馬健一	7
	中等1	村上中等	清水　哲	16
長岡	32	長岡	桐原宏史	31
	33	長岡大手	渡邉優子	22
	34	長岡向陵	髙橋周之	9
	35	長岡明徳	村山庄吾	13
	36	長岡農業	木村和史	28
	37	長岡工業	越　昌宏	18
	38	長岡商業	槇木　勲	23
	39	正徳館	横尾則幸	6
	40	栃尾	佐藤綱雄	17
	41	見附	遠山千勇	9
	特3	長岡聾	小網輝夫	3
	私9	帝京長岡	小熊牧久	9
	私10	中越	竹内　拓	11
	私19	長岡英智	岩下隆志	10
三条	42	三条	佐野明義	24
	43	三条東	伊藤大助	17
	44	新潟県央工業	五十嵐雅実	17
	45	三条商業	德永和教	12
	46	吉田	石黒浩司	10
	47	分水	須戸　修	9
	48	加茂	石川譲太	10
	49	加茂農林	今井亮二	44
	中等3	燕中等	石橋弘光	15
	私11	加茂暁星	山本泰裕	15
魚沼	50	小千谷	横堀正晴	15
	51	小千谷西	星　達哉	10
	52	堀之内	坂口和成	23
	53	小出	中村　剛	9
	54	国際情報	関口和之	21
	55	六日町	小竹博昭	16
	56	八海	白藤恵一	11
	57	塩沢商工	梅田　均	17
	58	十日町	保坂　哲	28
	58	松之山分校	河野理彦	2
	59	十日町総合	阿部正一	19
	60	川西	中原丈二	2
	61	松代	津畑　進	5
	中等4	津南中等	内山　崇	18
柏崎	62	柏崎	岡田　淳	18
	63	柏崎常盤	外山徹宏	14
	64	柏崎総合	佐野由美子	16
	65	柏崎工業	堀内義博	19
	66	出雲崎	小堺さとみ	13
	私14	新潟産大付属	松井公平	7
	中等2	柏崎翔洋中等	頓所裕史	12
上越	67	高田	中田　匠	30
	67	高田　安塚分校	川合克彦	2
	68	高田北城	榊　厚志	28
	69	高田南城(定)	田中健一	7
	69	高田南城(通)	五十嵐雅樹	5
	70	高田農業	真島徳衛	32
	71	上越総合技術	小林裕貴	27
	72	高田商業	川上史人	13
	73	久比岐	平原孝之	10
	74	有恒	大國隆彦	3
	75	新井	上野利彦	16
	76	糸魚川	斎京四郎	15
	77	糸魚川白嶺	増川義行	13
	78	海洋	山口活水	21
	中等5	直江津中等	島津優子	15
	私15	上越	風間和夫	8
	私16	関根学園	松嶋幸則	13
佐渡	79	佐渡	川上　豪	23
	79	相川分校	増田てつ志	6
	80	羽茂	羽豆拓夫	9
	81	佐渡総合	諸橋孝二	19
	中等6	佐渡中等	佐藤直之	15
行政		県立教育センター	鈴木正之	18
		高等学校教育課	橋本敏郎	19
		文化行政課	祝　政弘	5
		保健体育課	櫻井亮明	11
合計				2005

部会幹事および部会員数

No.	部会名	部会幹事		会員数	No.	部会名	部会幹事		会員数
1	国語	山本 寛	新潟南	187	8	工業	鶴巻 勝弘	長岡工業	155
2	地歴公民	小林 真也	正徳館	174	9	商業	釜田 浩文	新潟商業	109
3	数学	田辺 智洋	三条	286	10	水産	新井 清久	海洋	37
4	理科	近藤 弘志	新井	255	11	家庭	村田 しのぶ	長岡大手	127
5	芸術	土田 利枝子	十日町	72	12	保健体育	中根 悟	豊栄	126
		中條 由美	上越総合技術		13	生徒指導	皆川 武志	巻	242
		高谷 広子	新潟商業		14	図書館	坂井 寿光	塩沢商工	60
6	英語	荒木 美恵子	長岡	334	15	視聴覚	平倉 政弘	長岡工業	29
7	農業	千葉 哲弥	加茂農林	143	16	定通	萱森 茂樹	新潟翠江	196

事務局幹事

伊皆 嘉樹 （新潟南）　小川 浩子（新潟）　髙橋 有香（新潟中央）
渡邉 尚紀 （新潟南）　釜田 浩文（新潟商業）　高山 誠 （新潟南）
井上 幸一郎（新潟南）　田澤 弘美（新潟南）　佐藤 博美（新潟南）

新潟県高等学校教育研究会規約

第1章　総　　　則

第 1条　この会は、新潟県高等学校教育研究会といい、事務局を会長在任校におく。

第 2条　この会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的とする。

第 3条　この会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

1．高等学校教育に関する調査研究

2．研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行

3．会員の研究に対する援助

4．その他この会の目的達成に必要な事項

第2章　組　　　織

第 4条　この会は、新潟県にある高等学校の教職員およびこれに準ずるもので組織し、次の部会をおく。

1．国語部会　　2．地理歴史・公民部会　　3．数学部会

4．理科部会　　5．芸術部会　　6．英語部会

7．農業部会　　8．工業部会　　9．商業部会

10．水産部会　　11．家庭科部会　　12．保健体育部会

13．生徒指導部会　　14．図書館部会　　15．視聴覚部会

16．定通部会

第3章　機　　　関

第 5条　この会は、次の機関をおく。

1．委員会　　2．理事会　　3．部長会　　4．部会委員会

第 6条　委員会は、この会の決定機関であって、次のことを決める。

1．規約の決定並びに改正に関すること。

2．事業計画に関すること。

3．予算の決定、決算の承認に関すること。

4．財産および基金の処分に関すること。
5．役員の決定に関すること。
6．他団体への加入脱退に関すること。
7．この会の解散に関すること。
8．その他必要な事項に関すること。

第 7条　委員会は、委員で構成し、毎年開催する。臨時委員会は、理事会が必要と認めたとき、および半数以上の委員から要求があったとき、会長が招集する。

第 8条　委員会の議長は、そのつど構成員の中から選出する。

第 9条　理事会は、この会の執行機関であって、次の任務権限を持つ。
1．委員会から委任された事項の審議執行に関すること。
2．委員会に提出する議案に関すること。
3．緊急事項の処理に関すること。ただし、次の委員会に承認を得なければならない。

第 10 条　理事会は、理事で構成する。理事には、会長・副会長・各部会の部長・副部長および委員会で必要と認めた若干名がなる。

第 11 条　理事会は必要により会長が招集する。

第 12 条　部長会は、連絡機関であって、理事会と各部会および部会相互間の連絡にあたる。

第 13 条　委員会および部長会は、委任状を持参した代理人を認める。理事の代理は認めない。

第 14 条　委員会・理事会・部長会の会議は、構成員の２分の１以上の出席で成立し、多数で決する。可否同数のときは、議長が決める。

第 15 条　部会委員会は、部長・副部長・部会幹事および校内部会代表をもって構成する。

第 16 条　部会委員会は次の任務権限をもつ。
1．専門的事項について調査研究する。
2．専門的事項について委員会に提案する。
3．専門的事項についての業務を執行する。

第 17 条　部長委員会は、必要に応じ、会長に連絡して、部長が招集する。

第 18 条　部会は、必要により、学科または科目別あるいは地区別に分会を設けることができる。

第 19 条　部会の細則は、各部会ごとに作成して会長に届け、委員会の承認を得るものとする。

第4章　役　　員

第 20 条　この会には、次の役員をおく。

1．会長	1名	2．副会長	5名
3．部長	各1名	4．副部長	各4名以内
5．理事	若干名	6．委員	各校1名
7．会計監査委員	3名	8．幹事	若干名

9．部会幹事　　　各１名　10．校内部会代表　　各校内の部会各１名
11．顧問

第21条　役員の任務権限は、次の通りである。
1．会長は、この会を代表し、会務執行の責任を負う。
2．副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその任を行う。
3．部長は、その部会を代表し、部会の業務を統理する。
4．副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその任を行い、各地区別部会との連絡にあたる。
5．理事は第９条により会務を執行する。ただし理事は委員を兼ねることが出来ない。
6．委員は、各校内の意見を代表し、第６条によりその任を遂行する。
7．会計監査委員は、会計を監査し、委員会に報告する。
8．幹事は、この会の事務を処理する。
9．部会幹事は、各部会の事務を処理する。
10．校内部会代表は、各校内部会の事務を処理する。
11．顧問は、会長の諮問に応ずる。

第22条　役員の選出法は、次の通りとする。
1．会長・副会長・部長・副部長は、委員会で地区を考慮して会員の中から選挙する。
2．その他の理事は、必要により委員会で選挙する。
3．委員は、各学校から１名選挙する。
4．会計監査委員は、委員会で互選する。
5．幹事は、委員会の承認を経て会長が委嘱する。
6．部会幹事は、各部会の推薦により、会長が委嘱する。
7．校内部会代表は、各校内部会で互選する。
8．顧問は、委員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第23条　役員の任期は、２年とし、次期改選まではその任を行い、重任してもよい。
欠員の補充で就任した者の任期は、前任者の残りの期間とする。

第5章　会　　計

第24条　この会の経費は、会費・補助金・寄付金等による。ただし、寄付金および寄付物件の受理は、委員会の承認を要する。
会費は、毎年５月１日までに各学校ごとに委員がまとめ、部会別会員名簿をそえて事務局に送付するものとする。

第25条　この会の会計年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

第6章　雑　　　則

第26条　この会に入会しようとするときは、所属部会を明記し、各学校ごとにまとめて、会長に通告する。

第27条　この会の規約を実施するに必要な規定は、別に定める。

第7章　附　　　則

第28条　この規約は昭和23年10月15日から実施する。

2．昭和61年6月 9日改正施行する。

3．平成 2年6月 8日改正施行する。

4．平成 7年5月31日改正施行する。

5．平成23年6月17日改正施行する。

6．平成24年6月22日改正施行する。

事務局日誌抄

月・日	
4・　1	平成２９年度高教研役員交代・補充についての依頼発送
4・　1	平成２９年度高教研「会員募集文書」などの袋詰め作業および発送。
4・　1	平成２９年度高教研部会会計の取扱要領についての通知発送
4・12	高教研会計監査委員の派遣依頼発送
4・12	高教研幹事の派遣依頼発送（校外幹事３名宛）
4・27	会計監査(新潟南高校　応接室)
4・27	幹事会(新潟南高校　応接室)〈理事会の準備・運営について〉
4・20	高教研理事会の開催についての依頼・案内発送
4・25	予算作成作業着手
5・11	理事会(新潟南高校　視聴覚教室)〈本誌「理事会記録」参照〉
5・22	高教研部会幹事へ派遣依頼発送
5・30	高教研委員会文書審議の依頼発送（各委員宛）
6・　1	一般財団法人新潟県教職員厚生財団へ教育・文化活動団体助成事業完了報告書を提出
6・　1	公益財団法人　日本教育公務員弘済会　新潟支部支部長へ平成２９年度事業への助成について依頼
6・14	新潟県教職員厚生財団より４００，０００円助成
6・15	部会幹事連絡会（新潟南高校　図書館）〈部会経理等について〉
6・27	委員会文書審議の結果発送
7・28	新潟県教育公務員弘済会より２００，０００円助成
10．19	所得納税に係る部会経理要綱の一部変更についての通知発出
10・18	新潟県教職員厚生財団理事長へ平成３０年度事業への助成について依頼
1・10	各部会幹事に平成３０年度末「事務処理関係文書」電子メールにて発送
2・16	各部会より事業報告・事業計画(案)、決算報告書、高教研年報の原稿などの到着 『高教研年報』第５７号の編集作業に着手
2・27	公益財団法人　日本教育公務員弘済会　新潟支部支部長へ事業報告書を提出
3・31	『高教研年報』第５７号発行

（文責　県立新潟南高等学校　教頭　伊皆　嘉樹）

編集後記

平成29年度の高教研の活動をまとめた「高教研年報第57号」をお届けいたします。

高大接続システム改革が先行する形で議論されてきた次期学習指導要領は、平成30年2月に改定案が公表されました。AI 等の進展で職業像が一変する可能性が指摘され、グローバル化が一層進むと見られる2030年代に、社会人となる子どもが学ぶべきものが示されました。知識・技能だけでなく、思考力・判断力、表現力という、大学入試で求められる資質・能力を強く意識したものとなっています。

まず目を引くのは教科科目の大幅な改変です。日本史探究、古典探究、理数探究など、新科目名に「探究」を含むものが多く、「総合的な学習の時間」も「総合的な探究の時間」となりました。「課題を探求する能力」を育むことが最も重要な教育課題であると強く主張しています。「課題探求型の学習」は、例えば SSH 事業指定校での「課題研究」など、一部の学校で実践されましたが、今後はその裾野が大きく広がることとなります。自校の現状を踏まえ、いかにして探求型学習を展開していくかが、各校の大きな検討課題となるでしょう。

公民では、必修科目として「公共」を新設し、主権者としての思考力判断力を育むほか、「メディアリテラシー」(ネット上の情報の価値を的確に読み取る能力)の育成も示されました。さらに数学では、統計分野のウエイトが増しており、教科「情報」とも連携して「データリテラシー」(統計資料を的確に理解する能力)を育成することとされています。折しも「フェイクニュース」という言葉がメディアを賑わせ、国会では統計資料を誤った形で引用して問題となる等の報道もあり、「メディアリテラシー」「データリテラシー」の育成方針が一段と説得力を持って感じられるのは皮肉なことでした。

これからの数年間は、現行学習指導要領の完成を目指しつつ、次期学習指導要領へ向けた研究を進めていく時期であると位置づけられるでしょう。教育を巡る状況が大きく変化する時代にあって、「組織的・体系的な研修の場」としての高教研は、その価値を一層高めているといえるでしょう。教員が校種や年齢、専門性の垣根を越えて交流し、相互のネットワークを広げ、新たなモチベーションを得て再び自らの実践と向き合う。高教研の輪を一層大きく広げていくことは、本県高等学校教育の一層の充実に直結しています。

さて、昨年度の理事会において、高教研を活性化しその魅力を高めるために、会計制度を改めました。具体的には、各部会が複数年かけて活動費を積み立てることができるよう改め、まとまった予算を捻出しやすくしています。これにより、例えば著名な講師を招聘できる等、部長の裁量の幅が広がり、一層魅力的な事業展開ができるようになると期待しています。改定から丸2年が経ち、一部の部会では、大胆な予算配分により講演会を実施するなど、活性化策の成果が現れてきています。

平成25年に2,000人を切った会員数は昨年度2,011名となり、底を打った印象です。高教研の活性化は、徐々に、しかし着実に前進していると感じています。今後は、各部会で展開される特色ある研修会等の成果を広く発信し、高教研会員の裾野をさらに広げてほしいと思います。

末筆になりましたが、今年度も財団法人新潟県教職員厚生財団及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部から御支援をいただき、本会の運営費に充てています。紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

今年度の高教研の運営に御尽力くださった各部長様、副部長様、関係の皆様方に深く感謝申し上げるとともに、本県高等学校教育の更なる発展を祈念して編集後記といたします。